

令和 元年 5月 11日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 5月 9日 ~ 令和元年 5月 11日
出張先	東京都 明治大学アカデミーコモン棟
出張内容	新時代到来！～地方はどう生き残るか～ 東京都虹の下水道館、水の科学館を視察
応対者	一般社団法人 日本自治創造学会 http://jsozo.org/
	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>地方自治体がどう生き残るか？を講演を通して考える機会としたい。</p> <p>講演者のメンバーを確認し、こうした機会はあまり無いとの考えで初めて参加することとしました。</p> <p>【概要】</p> <p>※2日間の講師と時間帯については、末尾に記載する。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>本学会の穂坂邦夫理事長の講演に始まり、元鳥取県知事の片山善博早大教授、地方創生に取り組む民間団体の事例発表、前農林水産大臣の齋藤健衆議院議員の講演等等大変に充実した大会がありました。</p> <p>地方創生に対する各界の方々の様々な見方があることもわかりましたが、共通していたのは、これから少子化高齢化を日本が乗り切るには、個人、企業、自治体それぞれが新しい挑戦、考えるだけではなく行動しなければならないということでした。</p>
概要所感	

5月9日、10日、明治大学アカデミーホールで開催された研究大会に出席する。

会場の様子



5月9日の夜に行われた、改革発表会兼交流会では、全国から集った地方議員、学生が食事を取りながら交流することができました。

また議会改革に取り組んでいる愛知県岩倉市議会、沖縄県嘉手納町議会など各自治体悩みながら議会改革を勧めいらっしゃることがわかりました。

私も惰性に流されることなく、学び行動する「人間」でありたい。

議員活動を通して、地方の街が元気と誇りの持てる地域であり続けられる強く思いました。

■第1日目:5月9日(木)

12:00開場・受付

13:00～13:10大会挨拶 穂坂 邦夫((財)日本自治創造学会理事長)

13:10～13:40講演「自立へのシナリオを語る」穂坂 邦夫理事長
(財)日本自治創造学会理事長・地方自立政策研究所理事長

13:40～14:30講演「真の地方創生と地方自治」片山 善博(早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣)

14:30～14:45質疑 15分

14:45～15:00休憩 15分

15:00～16:30《事例発表》

「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」竹井 智宏((株)MAKOTO代表取締役)

「地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～」齋藤 潤一((財)こゆ地域づくり推進機構代表理事)

「外国人対策」谷畑 英吾(湖南市長)

16:30～16:40質疑 10分

16:40～16:50休憩 10分

16:50～17:30講演「少子高齢化を乗り切る取り組み～ゆでガエルにならないために～」

齋藤 健(前農林水産大臣・衆議院議員)

17:40～20:00改革発表会兼交流会(自由参加)

～改革大発信・ベスト1の選出・親睦・交流～

■第2日目:5月10日(金)

9:30～10:00 講演「SDGsと地域循環共生圏」中井 徳太郎(環境省総合環境政策統括官)

10:00～10:10質疑 10分

10:10～10:20休憩 10分

10:20～10:50講演「日本の課題と可能性」村上 由美子(OECD東京センター所長)

10:50～11:00質疑 10分

11:00～11:30講演「スポーツが持つ力と地域活性化」藤江 陽子(スポーツ庁審議官)

11:30～11:40質疑 10分

11:40～13:00昼食[12:35～((財)日本自治創造学会総会)]

13:00～13:40講演「日本が売られる～自治体は最後の砦～」堤 未果(国際ジャーナリスト)

13:40～15:20《パネルディスカッション》

「新時代到来！～地方はどう生き残るか～」

問題提起金井 利之(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

パネリスト(五十音順)

牛山 久仁彦(明治大学政治経済学部教授)

土居 丈朗(慶應義塾大学経済学部教授)

山下 祐介(首都大学東京人文科学研究科教授)

コーディネーター穂坂 邦夫(NPO法人地方自立政策研究所理事長)

15:20～15:25 閉会挨拶牛山 久仁彦((財)日本自治創造学会理事・明治大学教授)

5月11日 東京都 虹の下水道館・の視察

所在地 東京都江東区有明二丁目3番5号 有明水再生センター5階

電話番号 03-5564-2458

目的 下水道の仕組みを学ぶための施設環境を確認し、津山市における広域下水道施設での見学方式を探る



温水プール施設



下水道管

外からマンホールの内部をのぞいたり、実際の下水道管や
下水道管再構築工事のようすを見学してみよう！

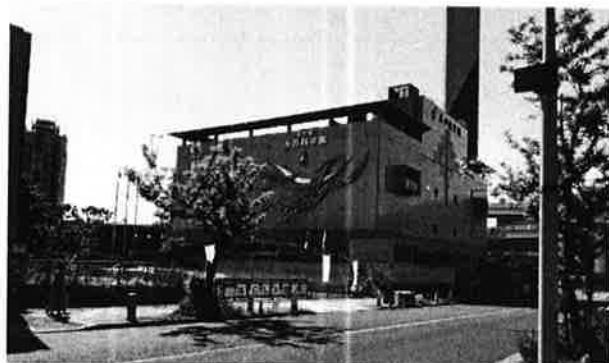


5月11日 東京都水の科学館視察

所在地 〒135-0063 江東区有明3-1-8

目的 命の源である「水」の上水道機能施設を見学し、津山市の上水道施設見学ルートの内容と展示手法を模索するため

参考 有明の直近に水道、下水道施設が設置され、都民にとっては、生活様式を確認する素晴らしい施設群である。
津山市では、到底まねの出来ない規模及び施設内容となっていますが、直接ポンプ施設、浄化施設を見学することで、「水工学」に興味を持つ子供達が出てくるのではと期待したい。

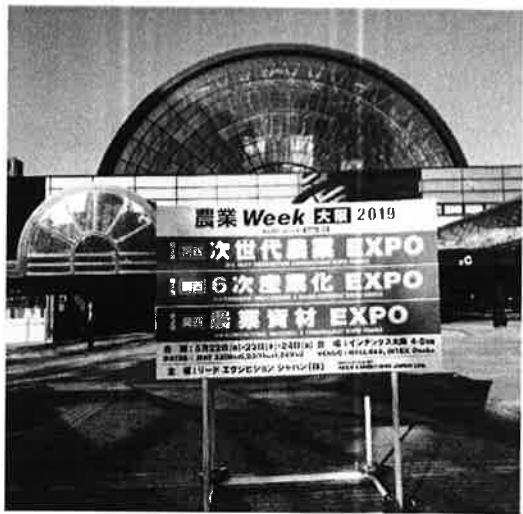


令和元年 5月 24日

出張報告書

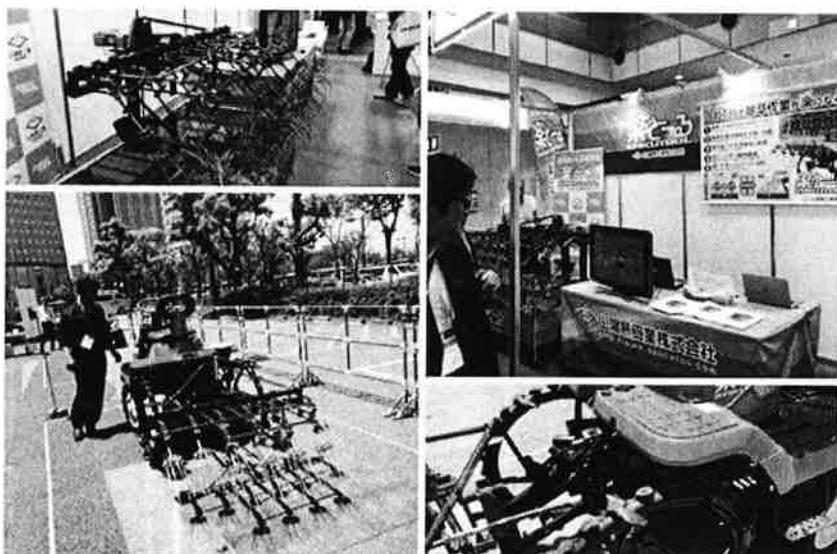
津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 5月 24日
出張先	大阪市(インテックス大阪)
出張内容	第3回農業Week大阪の視察
応対者	
概要感	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>スマート農業の将来象について確認する。</p> <p>展示内容 第3回農業Week大阪の視察・見学・聴講しました。</p> <p>関西農業資材EXPO</p> <p>関西6次産業化EXPO</p> <p>関西次世代農業EXPO</p> <p>【概要】</p> <p>目的のドローン、スマート農業フェア(新設)を見学、説明を受けることができました。</p> <p>水耕栽培技術も素晴らしい進化を遂げています。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>2019年は岡山県北の農業には、スマート農業が欠かせません。</p> <p>JA全農がめざす農業ICTの取り組みの講演を聴講する。</p>



メーカー各社によるスマート農業機械を見学し、説明を聴取する。

津山に本社のある「山陽熱工業」の除草機の実物展示も見学させていただきました。



JA全農がめざす農業ICTの取り組み

～営農管理からドローン活用まで～

2019年5月24日（金） 10:30-11:30

全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 部長 永島 聰

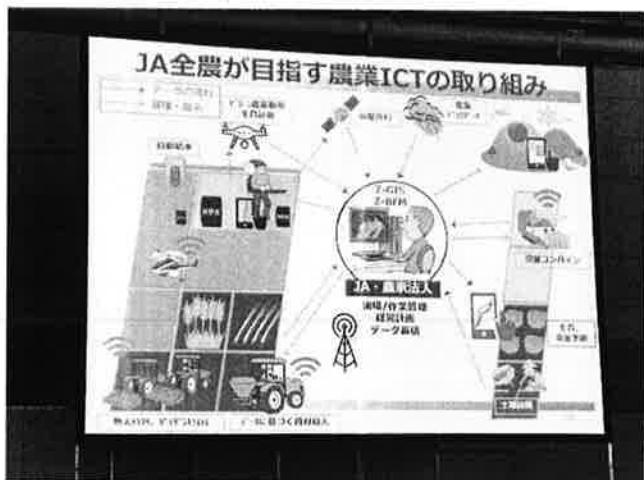


<講演内容>

農業生産現場では担い手や労働力の不足、耕作放棄地の拡大などの課題に直面しており、対応策の一つとして農業ICTへの期待が高まっている。ここでは、JA全農が取り組む営農管理システムやドローンなどの新技術を活用した営農支援と今後のめざす方向について紹介する。

<プロフィール>

1986年JA全農に入会、農業技術センター（現 営農・技術センター）で野菜の種苗増殖、セル成形苗生産、栽培技術等の研究開発に携わる。1999年生産資材部に異動、2008年資材原料課長、2010年総合課長、2012年生産資材部次長。2014年に業務監査部長などを経て、2017年8月から現職、耕種総合対策部長。



キーワード

Z-GIS

<https://z-gis.net/99/index.html>

Z-BMF

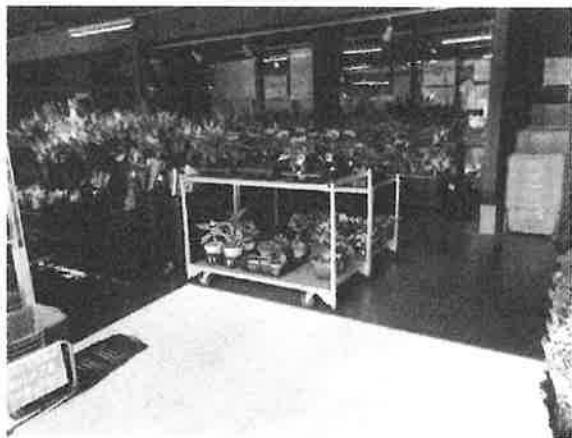
<https://fmrp.dc.affrc.go.jp/programs/farmplanning/z-bfm/>

令和元年 5月 24日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 5月24日
出張先	彩々みまさか箕面店の視察
出張内容	小林隆一副店長と面談
応対者	
	<p>【種別】 <input checked="" type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>地域商社を推進していくに当たり、「彩々みまさか 箕面店」の販売状況について、小林隆一副店長と面談</p> <p>【概要】</p> <p>作州地域の農産物の商品群及び、販売状況について確認ができた。</p> <p>農産物販売の参考となる施設です。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>地域商社事業を進めるに当たっては、広域連携での販売農産物の集積が必修である。</p> <p>美作市や真庭市との連携を模索し、流通コストの削減に向けての方策を検討する必要があると感じる。</p>



生産者が津山市の生産者もおられる。



生産者は西粟倉村

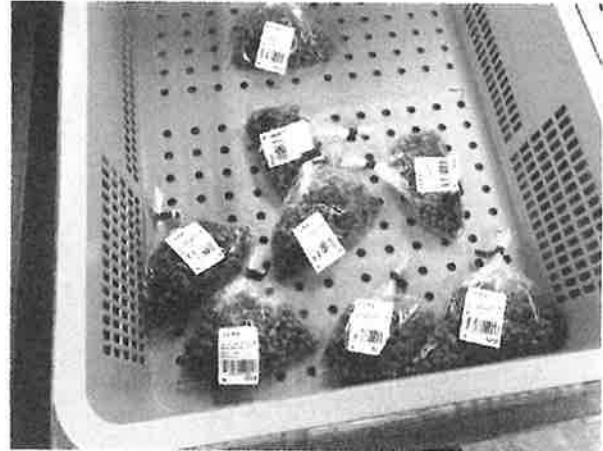




乾燥野菜の売れ行きも好調とのこと



山椒の実の販売



イベントチラシ



令和元年 5月 28日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 5月 28日
出張先	福山市
出張内容	福山市ばら祭り会場視察
応対者	福山市 議会事務局
	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 令和元年5月18日・19日に開催された福山市ばら祭り 2日間で過去最高の86万人が参加(主催者発表)とあります。 福山市の観光イベントとし、長期間継続し、人気のあるイベントの内容を把握する目的</p> <p>【概要】 福山駅から、バラ祭りの様子を思い浮かべながら、福山バラ公園を歩きで往復する。 視察後、福山市議会事務局を訪問し、幾つかの質問を投げかけて後日回答をいただきました。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 ばらそのものは、昨年伺った可児市のばら公園のほうが、規模も大きく、魅力的だと感じます(個人的見解) しかし訪れる人の数となると、可児市より4倍の人数であり、ばら以外に多くの魅力的な催し 伝統、交通環境、魅力的なイベント、……</p>
概要所感	

令和元年5月18日・19日に開催された福山市ばら祭り

2日間で過去最高の86万人が参加(主催者発表)とあります。

2日間で福山市の人団(46万9千人)の2倍の人が集まる「イベント」理由が解りません



色とりどり1.1万本 福山ばら祭開幕

見頃を迎えたバラを楽しむ来場者

福山市・緑明公園

△「だまされんのじやなくせ特殊詐欺」休みます。



福山市最大のイベント・福山ばら祭（市や福山青年会議所などでつくる福山祭委員会主催）が18日、市中心部で2日間の日程で開幕した。初日は約35万人（主

催者発表）が訪れ、主会場の緑明公園（同市緑明）など4公園に咲く約1万一千本のバラを観賞しながら、多彩な催しを楽しんだ。

今年のテーマは「さつとく見つかるあなたの宝物」。各公園の花壇では色とりど

りのバラがまさに盛り。来場者が写真に收めたり香りをかいだりして堪能した。バラに親しむコチナも人氣で、緑明公園内のローテアリートでは来場者が1本ずつ木箱に切りバラを差し込みフラワーボックスに仕上げていった。

同公園の特設ステージでは市民らによる演奏や踊りが披露され、飲食アースが並んだ一帯もにぎわった。あちこちの街角では、全国から集まった大道芸人たちが愉快なパフォーマンスを繰り広げた。

夫婦で訪れたパート石井綾子さん（47）（岡山市南区丸尾）は緑明公園に入った途端にバラの香りがした。たくさん種類が咲いていては豊富です」と笑顔だった。

19日は43団体約2500人が市中心部約1キロを練り歩く「ロードパレード」（午後0時半から）などがある。

（内田博文）

備後版

花と催しはじける笑顔

山陽新聞デジタル

備後版の記事一覧へ
備後版の最新記事へ
備後版の検索へ
備後版の RSS フィードへ

備後ワイン飲み比べ



1月17日(火) 1月18日(水)
開幕式 1月18日(水)
1月18日(水) 1月19日(木)
1月19日(木) 1月20日(金)
1月20日(金) 1月21日(土)
1月21日(土) 1月22日(日)
1月22日(日) 1月23日(月)

踊りパレード 最高潮

（以下）福山ばら祭開幕式の模様

2日間 最多86万人満喫



福山市観光課の回答

①ばら祭の来場者数(会場5カ所の延べ来場者数)

	土曜日(1日目)	日曜日(2日目)	合計
2018年度(平成30年度)	34万人	51万人	85万人
2019年度(令和元年度)	35万人	51万人	86万人

4カ所の会場(緑町公園、ばら公園、花園公園、中央公園)や商店街は、多数の来場者で賑わい、JR福山駅から2Km離れたメイン会場(緑町公園)まで、歩行者が連なり、人混みで歩きにくい場所も発生した。

自家用車の来場者は、特設駐車場(有料)には約1,700台、近隣商業施設の無料駐車場(数千台収容)は満車状態が続き、市中心部で交通渋滞も発生した。



②ばら祭の福山市の予算

ばら祭は、福山市や商工会議所、観光コンベンション協会などで構成する福山祭委員会で運営している。2019年度の事務局の運営費を除くばら祭の事業費は65,607千円。
うち21,600千円を福山市が負担。

③ばら祭の経済効果

算定していないが、会場の飲食ブースは出店者が満足する売上があった。
一方、近隣商業施設の売上は、通常の週末に比べて減少するなど、効果が及んでいない。

④せとうちDMOと福山市のかかわり

せとうちDMOは、福山市を含む瀬戸内7県の観光資源について、主に欧米をターゲットとした観光マーケティングやプロダクト開発を行い、「瀬戸内Finder」というメディアで国内外に情報発信を行なっている。福山市は観光客の受入環境整備を担っている。

福山市役所から質問の回答

(ばらのまちづくりについて)

①100万本のばらの維持方法、管理体制、費用について

(回答)

市内における100万本の内訳は、9割以上が各家庭や地域に植栽されているとされており、自主的な管理に委ねている。

このため、市としては市民や地域団体等への支援として、次のような事業を行い、100万本の維持管理や人材育成はもとより、ばらのまちづくりの更なる普及などに努めている。

○ 市の支援事業

(1)福山ばら大学の運営

初心者でも安心してばらの栽培に取り組める環境づくり。

1年間(月1回、11講座)を通じて、ばらに関する知識や技術の習得により、地域のばらのまちづくりの推進役となるばらづくりのリーダーを養成することを目的として実施している。

(2)出前講座・各種講習会

ばら栽培の技術の取得、ばらの植栽本数の増加、ばら栽培の楽しさを学ぶため、出前講座や市民団体が実施する講習会等を実施している。

→ばら栽培全般、接ぎ木・挿し木、剪定講習等

(3)ばらの配布時・植栽時等におけるサポート

ばら苗の配布時等に、リーフレット「美しいばらの育て方」や小学生向けの「みんなのばらの育て方」を作成・配布。また、市広報に育て方の情報を連載するなど初心者でも安心して、ばらを育てることができる環境整備に取り組んでいる。

(4)ばら苗配布事業

ばらの普及とばら栽培の浸透を図り、一人でも多く市民が「ばらづくり」に参加できるよう実施している。

「100万本のばらのまち」をめざし、ばらの輪を広げるために全市民に呼びかけ、熱意のある市民にばら苗の配布を行っている。1992年(平成4年)より開始し、これまで16万本程度のばら苗を配布。

2019年度予算額 | 3,700千円(ばら苗3,200千円 肥料500千円)

(5)入学記念ばら苗配布事業

家庭でばらを育てるこことにより、ばらを身近に感じられる環境づくりを行い、市民皆で100万本のばらのまちづくりをめざす取組です。子どものころから、ばらを育て触れ合うことにより、「ふるさと福山」への誇りと愛着、思いやり・優しさ・助け合いの心(ローズマインド)を育むことを目的として、市内の全小学校へ入学の児童に配布しています。2011年から実施している。

2019年度予算額 | 2,560千円(約4,500本配布)

新入学生記念ばら苗配布(小学校1年生)

◎公共施設の維持管理

(駅前周辺広場)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年12回 約110万)看板で事前告知(早朝に実施するなど)

(幹線道路)

ばら公園前県道…地元町内会など(補植のばら苗 | 市から支給)

(剪定などは地元対応)

国道2号…国土交通省のVSP(ボランティアサポートプログラム)を活用

国土交通省(肥料の配布や看板設置など) 市(ばら苗の支給)

駅前大通り…プランタの設置(沿線の町内会や店舗など)

福山明るいまちづくり協議会

(春秋の剪定講習会やばら苗の支給)

ローズロード…市(駅前～アイネス前), 店舗(商店街など地元)

市・ばら大学・修了生など(中央公園外周やオベリスク, 中央公園～妙法寺～ばら公園)

[主な公園(市管理のばら園)]

ばら公園 約5,500本

(2014年度・2015年度駐車場整備と芝生広場の整備, ばら花壇は未整備)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年12回 約160万円)

除草…業者(ほぼ毎日 約900万円)

緑町公園 約5,100本(2010年度に全面植替)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年12回 約140万円)

除草…業者(ほぼ毎日 約200万円)

駅家公園 約1,000本(2013年度:ばら花壇再整備)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年6回 約28万円)

除草…業者(必要に応じて 約370万円:他の2公園分含む。)

機織北公園 約400本(2014年度:ばら花壇新設)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年6回 約13万円)

除草…業者(必要に応じて 約720万円:他の7公園分含む。)

春日池公園 約3,300本(2015年度:ばら花壇再整備)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年12回 約110万円)

除草…業者(必要に応じて 約270万円)

花園公園 約300本(2015年度:公園新設)

剪定…市(公園緑地課緑化センター職員)

消毒…業者(年12回 約26万円)

除草…業者(必要に応じて 約190万円:公園全体)

◎福山明るいまちづくり協議会

(福山市の市民憲章の具現化と住みよいまちづくりを推進する目的で個人、団体、企業が会員～「ばら」推進・環境美化・健康福祉・安心安全等、6の専門部会で構成)

・ばら花壇コンクール

地域や事業所でのばらづくりの成果を競い合い、ばらづくりが盛んになるよう、年1回(5月)に実施しています。

2019年度 80花壇(地域花壇43、企業18・学校花壇19)

・ばら普及員制度

ばらづくりの普及推進を図るため、ばら花壇管理者と連携を取りながら育て方等の指導にあたる普及員制度を創設し、市内のばらづくりの専門家を委嘱し、要請に応じて派遣している。

1993年度(平成5年度)創設。

31人委嘱(2018年6月19日現在)

②2024年世界バラ会議の概要について

(回答)

世界バラ会議は、世界40か国が加盟する世界バラ会連合の最大の大会で、3年に1度開催させる。大会には、世界各国からばらの研究者・育種家、生産者、大学教授、愛好家等600人から700人が集い、研究成果の発表や殿堂入りのばらや優秀庭園の発表等が行わればらの世界に多大な影響力を持つとされている。

1 開催目的

2006年大阪大会に次ぐ日本で2回目の開催は、2020年の「オリンピック・パラリンピック」以後の我が国の国際会議の一つとして日本の国際的なプレゼンスの向上につなげるとともに、国内外のばらファンの拡大を図り、観光や産業の振興に寄与する。また、被爆地でもある広島県での開催は平和のメッセージの発信にもつながる。

福山大会のテーマは、「Roses for the Future ～福山からはじまる、新しい未来～」、見る人の心を癒やし、笑顔をもたらすばらの力と互いを思いやり、助け合う心を大切にする市民の力で、まちと市民が後世まで輝き続ける福山とばらの新たな未来を切り拓いていく大会としていきます。

このため、「みんなで創る」「みんなで盛り上げる」「みんなで輝く」を開催コンセプトとして、ばらの新たな可能性が感じられ、人々の心に残る大会にしていくことに取り組んでいくとともに、大会後も発展し輝き続ける福山となるよう、大会の開催を契機に生み出される効果を大会レガシーとしてまち全体に波及させていきます。

2 主 催

世界バラ会議福山大会準備委員会

日本ばら会 ※両者の共催ということで進めているが今後変更あり

3 開催予定期

2024年5月

4 世界バラ会議の内容

- ① ばらに関する研究成果の発表や講義
- ② 殿堂入りのばらや優秀庭園賞など各種の決定、各種委員会の開催
- ③ 開会・閉会行事および交流行事
- ④ ばら園等の視察
- ⑤ ローズショー、展示会
- ⑥ 大会前後のプレツアーや、ポストツアーやの開催など

5 直近の世界バラ会議の開催地(予定も含む)

2015年 リヨン(フランス)大会

2018年 コペンハーゲン(デンマーク)大会

2021年(予定) アデレード(オーストラリア)大会

2024年(予定) 福山(日本)大会

6 今後の予定

2018年 基本方針策定

2019年 基本計画策定

2020年 実施計画策定

2021年～2024年5月 計画にもとづき準備

(なお、その都度、効果的なPR活動に取り組む。)

令和元年 5月 28日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 5月 28日
出張先	倉敷市(倉敷ロイアルアートホテル)
出張内容	岡山地方自治政策研究会
応対者	地方自治政策研究会
概要感	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 34回岡山地方自治政策研究会に出席する。 今回のテーマは、「人口減少に対応する公民連携」で県内から15名の皆さんのが参加されました。</p> <p>【概要】 倉敷市の公民連携事業の取組について聞く</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 今後の公共施設の在り方について参考になるお話を聴くことができました。 「アルネ津山」を「墓標」と表現されていることには、ショックを覚える。 学校のプールの在り方 30年度のFMで取り上げられて議題 公民連携に取り組んでいる他市の事例も多いに参考にしていきたい。 福山市、大東市</p>



動きだした！公民連携事業

令和元年 6月 11日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 6月11日
出張先	岡山市 ピアリティまきび会館
出張内容	観光キャンペーン2019「おかやま果物時間」
応対者	岡山県観光推進協議会
概要感	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 観光キャンペーン2019「おかやま果物時間」の目的を確認する</p> <p>【概要】</p> <p>観光キャンペーン2019「おかやま果物時間」の特設サイトを公開しました。</p> <p>今年のテーマは「フルーツ&アート」！</p> <p>実施期間:2019年7月1日(月)～11月30日(土)</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>7月からの取組について、津山市での取組を探る。</p> <p>秋以降の取組がどうなるか?注視する必要がある。</p>

観光キャンペーン2019「おかやま果物時間」

おもてなし研修会に参加する。

1) 観光キャンペーン2019「おかやま果物時間」主要イベントの紹介

各パンフレットに基づく

この段階で、津山市の名前は無かった。

2) やさしい日本語のインパクト

吉開 章(よしかい あきら)先生

やさしい日本語ツーリズム研究会事務局長

「やさしい日本語でおもてなしをしよう！ 英語でなくていいんです」

日本で外国人と話すときいちばんつたわりやすいのは日本語です。



令和元年 7月 7日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 7月 5日～7月7日
出張先	福島県大玉村、福島県南相馬市
出張内容	大玉村のデマンド交通、南相馬市の震災復興の現状確認
応対者	大玉村押山利一村長、遠藤義夫議長、稻葉洋貴主査他
	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 iJUMP【クローズアップ】に掲載の記事(5月23日)を読ませて頂き、稻葉洋貴主査(元総務省勤務)に面談し、官僚をやめてまで、大玉村の職員としての行政の取組まれるにいたった経緯をお伺いすることを目的とした。</p> <p>【概要】 大玉村役場を訪問する前に、村全域を走り、村の様子を見させて頂き、その後、役場で押山村長、遠藤議長に面談、総務部政策推進課館下課長さん、鈴木課長補佐、稻葉主査さんから、大玉村の取組を聴取する。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>概要所感</p> <p>元官僚の稻葉さんの経験は、村行政での企画面で、大きな力になっているとの印象を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進む中、大玉村の人口は増加している。 未来を見据えた行政運営が行われている。 郡山市、二本松市に近接しているため、ベッドタウンとしての村である。 <p>今後も注目していきたい村です。</p>

iJUMP【クローズアップ】に掲載

◇総務省出身、子育て機に移住「地方創生の波に」=稻

19/05/23 08:30 NG26



稻葉洋貴・福島県大玉村政策推進課主査

人口約9000人ながら、40年にわたり人口が増加している福島県大玉村。

充実した福祉政策がその背景にある。

○ 総務省出身の稻葉洋貴・政策推進課主査(いなば・ひろたか=34)は、第1子誕生を機にここに移住した。

「地方創生の波に乗りたい」と一念発起し、公共交通や定住促進といった地域課題に取り組みながら、仕事と家庭とを両立させつつ充実した日々を過ごしている。

総務省では自治財政局などに所属し、水道事業の民営化や海外展開に携わった。

福島県との関わりは、2009年から11年3月まで県の市町村財政課に出向したことがきっかけ。

在任中は豊かな自然、穏やかな県民性に魅力を感じたという。

しかし、東日本大震災の直後に異動となり、「後ろ髪引かれる思い」で総務省に戻った。

福島県で出会った女性と13年に結婚し、2年後に第1子が誕生。

当時は埼玉県内で暮らしていたが、国会対応に追われ、終電後まで残業することもあった。

○ 「息子は待機児童になってしまい、妻は働きたくても働けなかった」。こうしたこともあるって、17年4月、医療費の無料化など子育て支援が手厚い大玉村に家族で移住し、村職員として働き始めた。

この2年、村職員として稻葉主査が力を注いできた施策の一つがデマンドタクシーの整備だ。

病院や郵便局、村外の最寄り駅などを結ぶ予約制の公共交通で、高齢者らの外出を支援するため、昨年度、本格導入した。

試験期間中には、地域住民が集まるサロンで約20回説明会を開き、直接要望を聞いた。

「小さい組織なので、すぐに(施策を)修正できた。仕事の結果が目に見えるので、やりがいを感じる」と手応えを語る。

私生活にも大きな変化があった。

自宅は役場まで徒歩5分で、長時間の残業はない。

3歳の息子は4月に村立幼稚園に入り、妻も仕事に就いたため、掃除や洗濯、息子の送迎といった家事を担当している。休日は家族と一緒に庭で野菜作りを楽しむほか、草刈りやごみ拾いといった地区の活動に参加。「仕事と家庭を両立できている」と話す。

現在、取り組んでいるのは、自らの経験を生かした定住促進だ。

都内で移住セミナーを開くとともに、住宅・子育て支援など村の魅力をまとめた冊子を新たに作成した。

「現場に出て、地域の人の声を聞くことが公務員の原点だと気付いた。東京で働く方は、もっと地方に出てもいいのではないか」。そう力を込めた。

静岡県出身。

07年総務省に入省し、自治財政局、消防庁総務課、自治大学校、地方公共団体金融機関で勤務。

福島県に出向していたときから自然豊かな大玉村に引かれ、移住前にもふるさと納税などで応援していた。

「画像で観る「大玉村」



ペルー共和国とのホストタウン

遠藤議長と

説明を聴く



館下課長、鈴木課長補佐 稲葉主査



小学校は芝生グランド



広域生活バス停留所



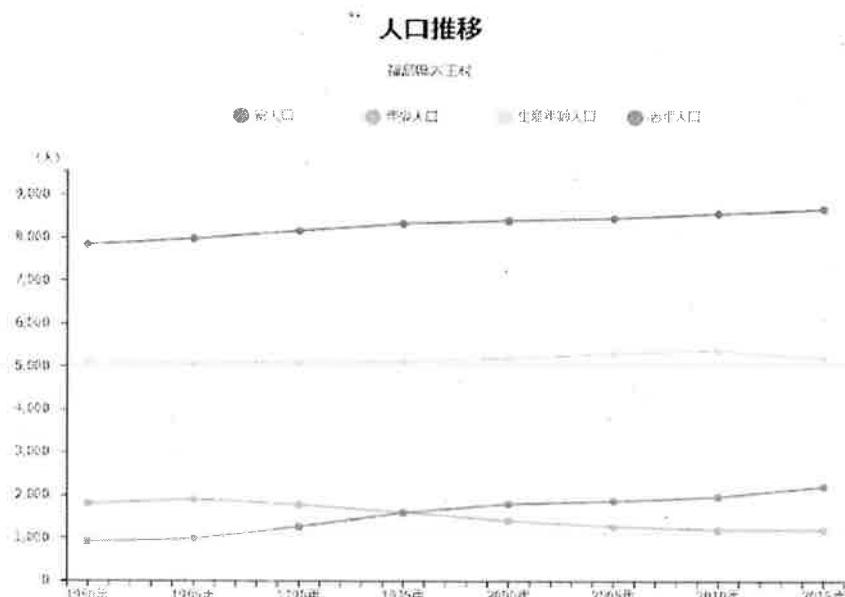
道の駅の周辺には芝生広場



寄贈を受けたAKBus



大玉村の人口推移



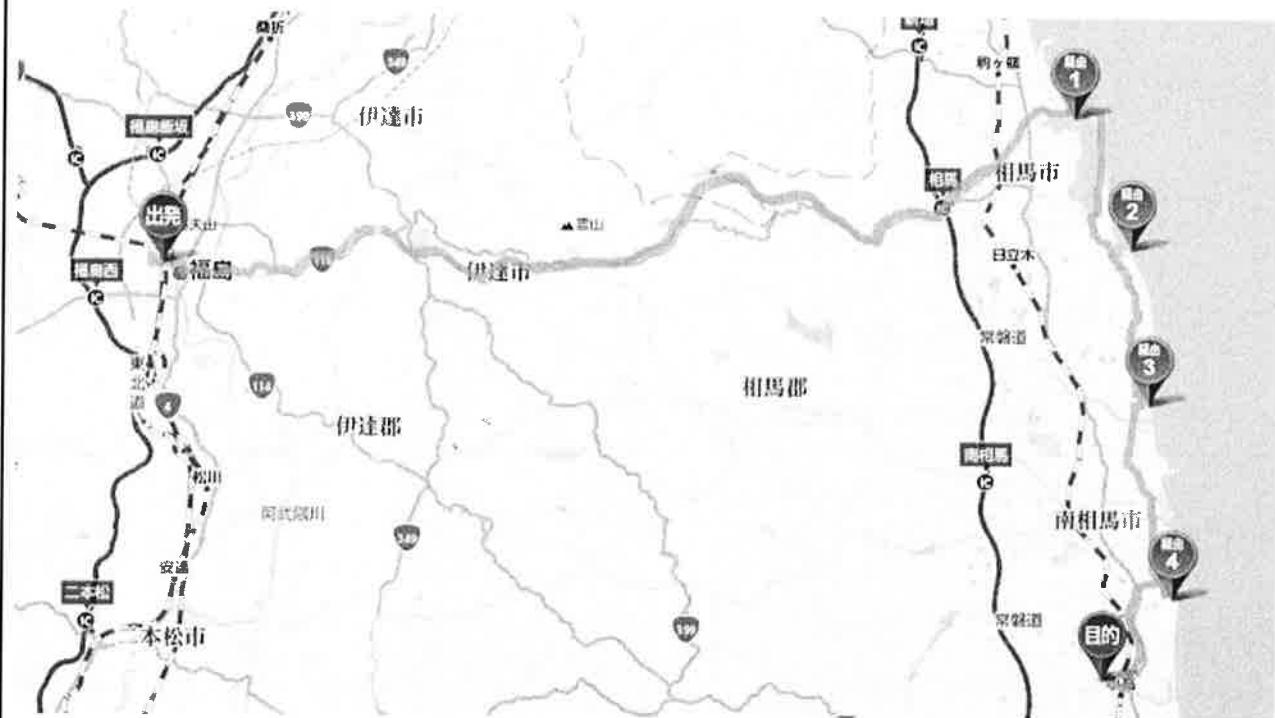
令和元年 7月 7日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

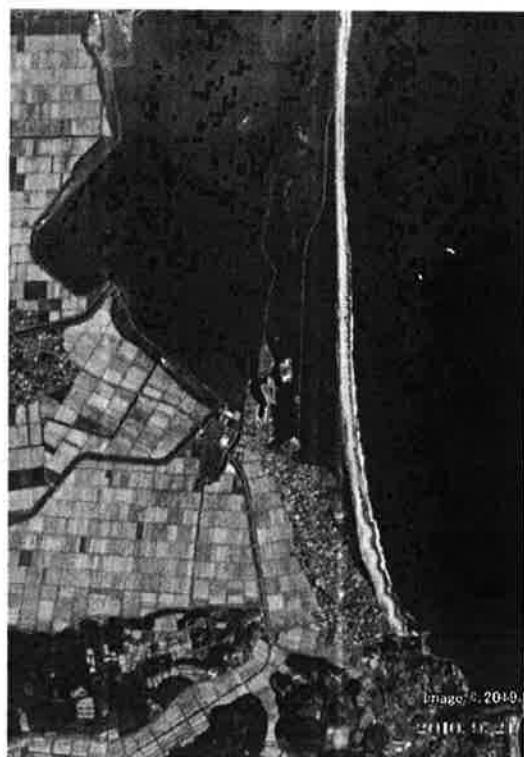
出張期間	令和元年 7月 5日～7月7日
出張先	福島県南相馬市(津波被災地の現状)
出張内容	
応対者	<p>【種別】 <input checked="" type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 東北大震災による被災地の現状を確認する 相馬市、南相馬市</p> <p>【概要】 福島駅よりレンタカーを利用して、南相馬、相馬市の被災地の復興状況を確認する。</p>
概要所感	<p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>津波と原発事故による被災住民の一部は、元の場所に戻られているものの、壊滅状態となつた街は存在していない。</p> <p>跡地は、太陽光発電になつてしまつていて。</p> <p>放射能汚染の除染は進んでいて、稻作農家は、少なくなつていて印象をもつ</p>

福島駅→ 相馬市(松川浦) → 茶屋ヶ岬 → 右田浜 → 東北電力火力発電所 → 小高地区



松川浦地区　震災前は暴風林が茂っていたが、津波で跡形もなくなってしまった。

画像下の住宅地も完全に壊滅状態となり、現在は太陽光発電施設となる。





防風林の復活とクロマツの植栽が行われている。

相馬漁港

津波被害を受け、堤防の崩壊を復旧している。

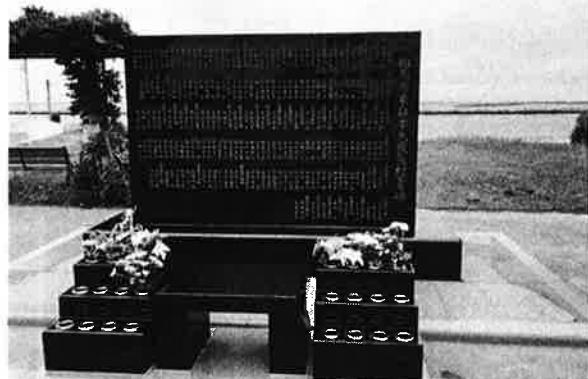
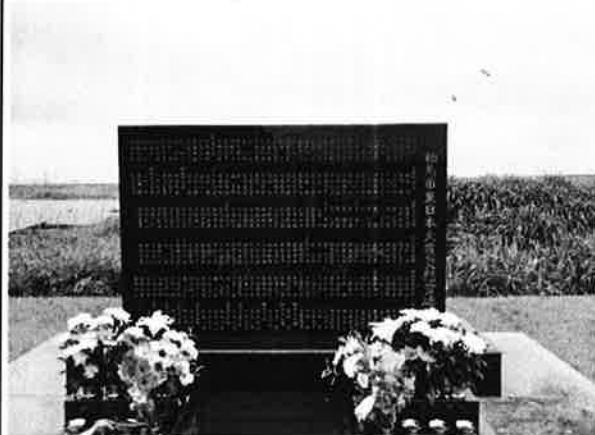


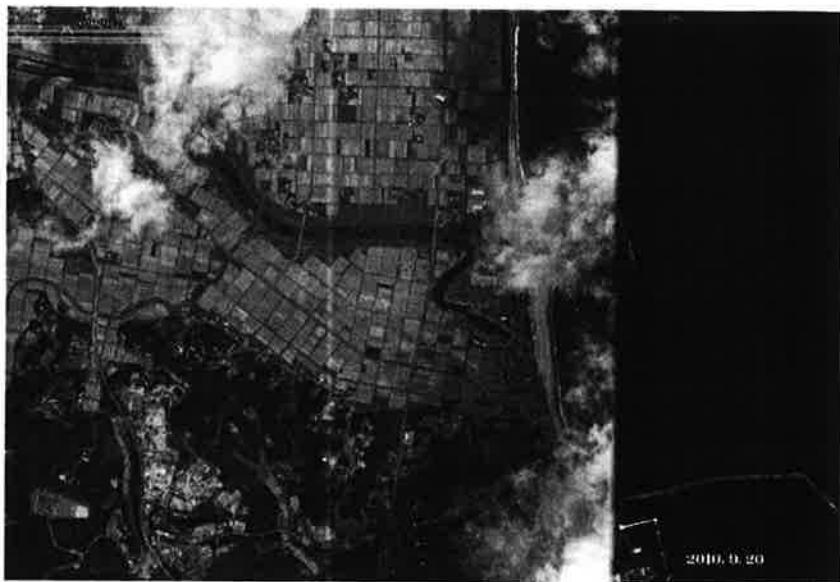
2009年11月



2018年11月

津波被害で亡くなられた方の慰靈碑が各地で祀られている





2010年9月20日 震災前の東北電力火力発電所



住宅地域は全て、太陽光発電所となる。

2018年9月18日 震災後の東北電力火力発電所

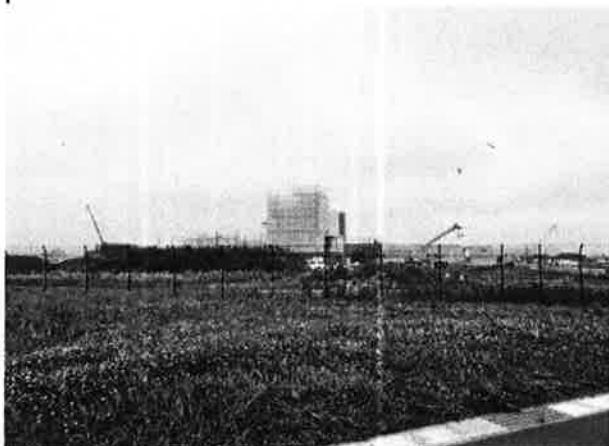
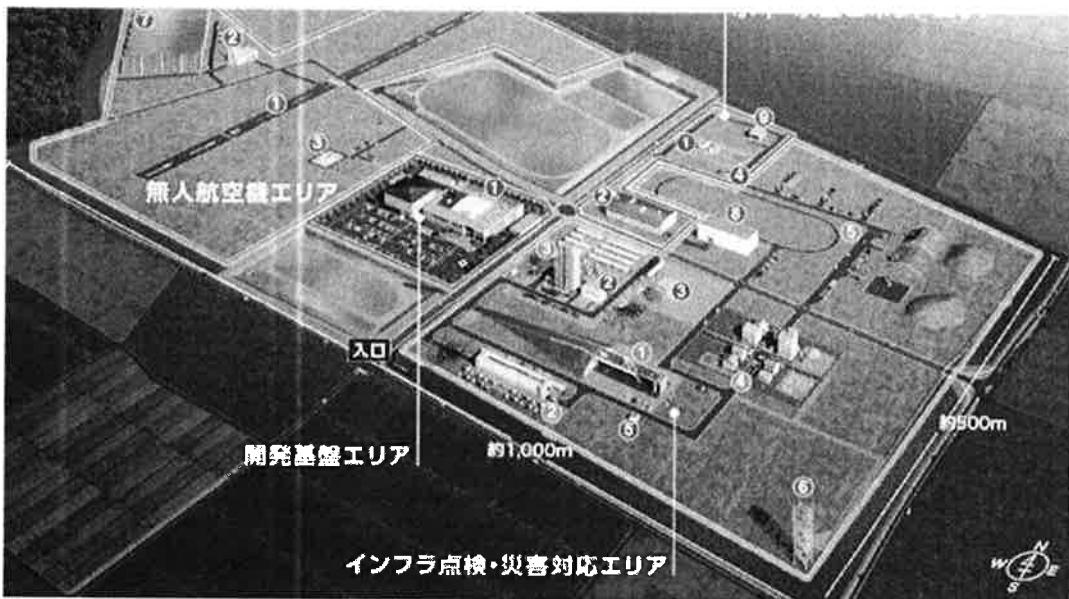


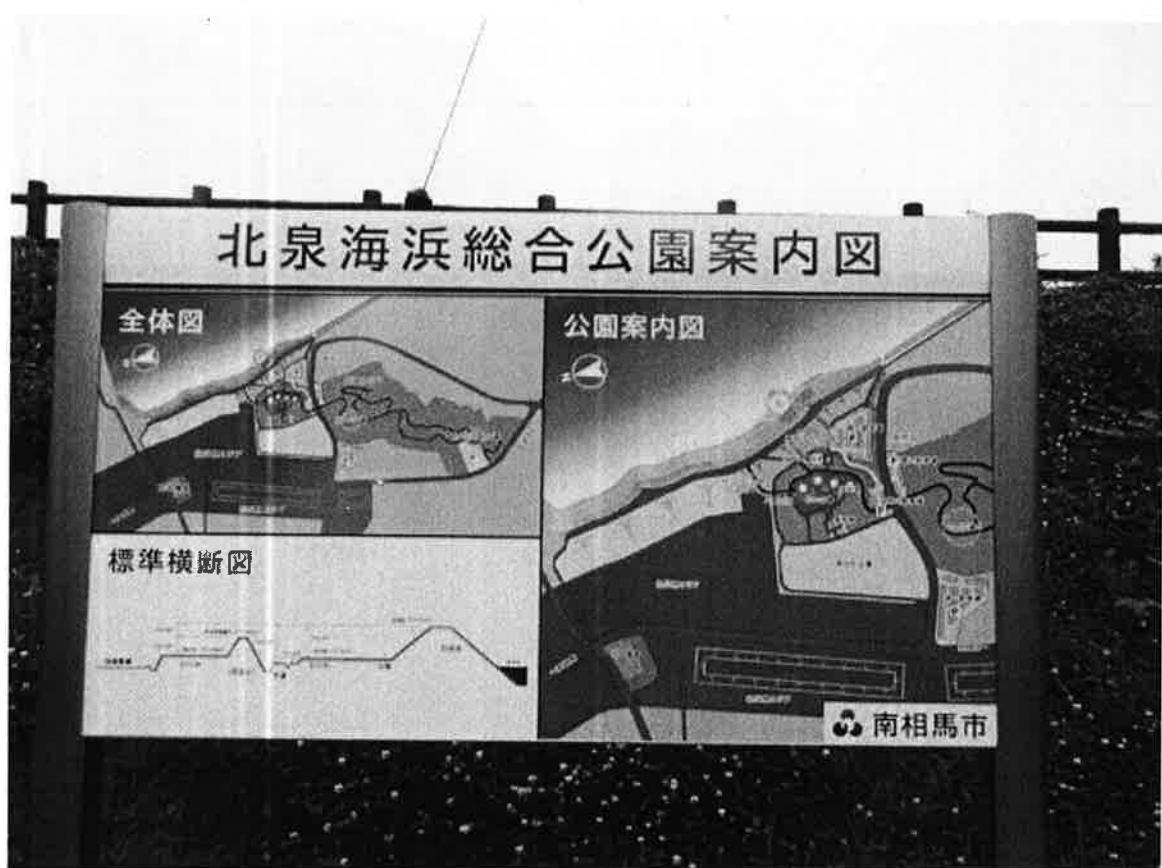
現在の火力発電所(南側から撮影)

福島ロボットテストフィールド建設中

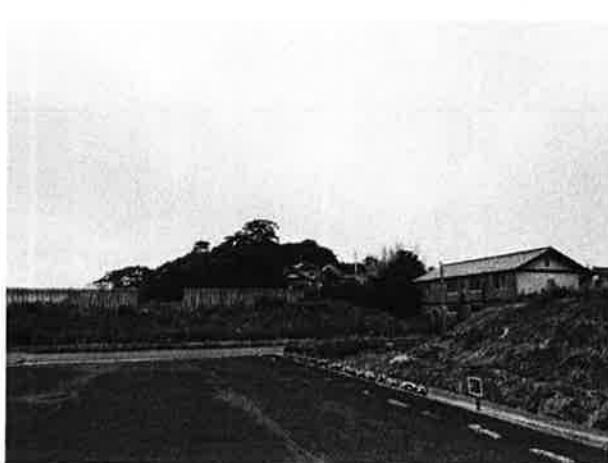
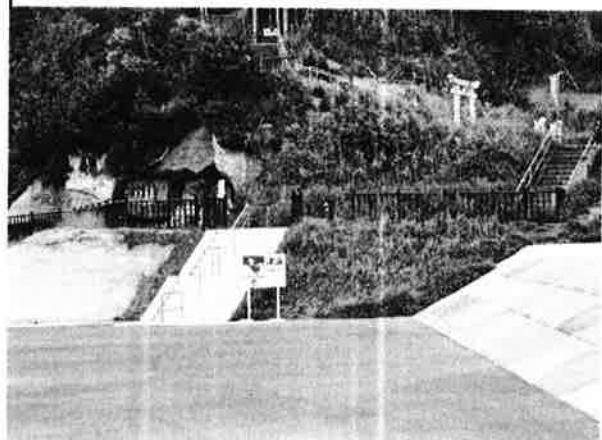
<https://www.fipo.or.jp/robot/>

南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番





各所に津波被害地の表示看板が設置されている

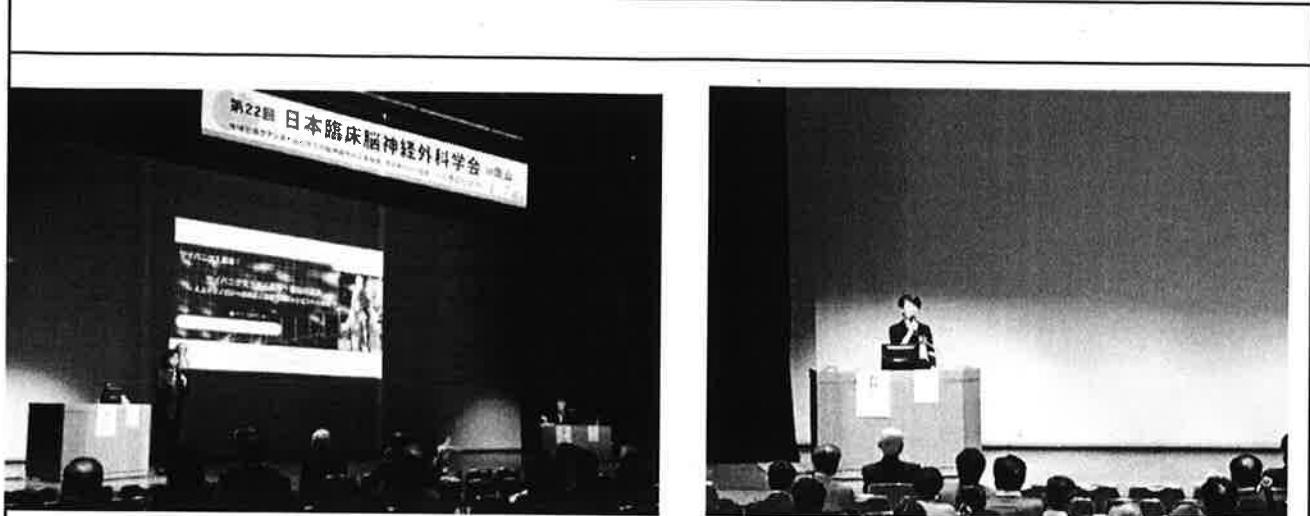


令和元年 7月 21日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 7月 21日
出張先	岡山市 岡山コンベンションセンター
出張内容	日本脳神経外科学会in岡山の市民公開講座を聴講
応対者	日本脳神経外科学会
	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 山海嘉之教授(筑波大学) サイバニクスで拓く医療・福祉の未来 山海教授のお話しを聴くのは2回目ですが、介護ロボット研究会の参考にすることを目的に聴講しました。 つやまイノベーションセンター設立記念講演(平成28年10月7日) 2年以上の経過を経ると、当時の内容をはるかに超える進化、開発が進んでいます。</p> <p>【概要】 山海嘉之教授(筑波大学) サイバニクスで拓く医療・福祉の未来</p> <p>有森裕子さん 二度とやってこない一瞬を精一杯いきること</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 津山市では、美作大学を中心として、介護ロボット研究会を開催し、介護ロボットの将来の方向性について研究しています。 ロボットの研究は、今後必要性が問われると考え、議員としても研究の動向を注目していくなければと考えます。</p>
概要感	



山海嘉之教授(筑波大学)

有森裕子さん

※両氏とも、岡山県出身

山海嘉之教授(筑波大学)

研究会での議論は、すでに開発され、臨床実験の結果が出ている内容であった。

**世界初！排泄支援のためのトイレドッキング型ロボット
(超高剛性薄型中抜き構造で便座とのドッキングを実現するロボット)**

トイレドッキング型ロボットは、ロボット自身で環境地図をつくり、
排泄支援のために90メートル先のトイレに向かって廊下を自動で走行！
超高剛性薄型中抜き構造！ タイヤがロボット化?! トイレに自動でドッキング！

USA : Brooks Cybernics Treatment Center (サイバニクス治療センター)

CASE ギランバレー症候群
Diagnosed in Apr 2018

Oct 2018 Before treatment Feb 2019 After 15 treatments

BrooksはMayo Clinic (Mayo医療大学を保有)と連携しており、
骨盤拘縮+再生医療、脳卒中での治療について協議中。
「全米の優れた病院」2018-2019年版では、メイヨー・クリニックは1位にランク。
アメリカ合衆国の大統領やヨルダン国王をはじめ、各界のVIPが治療を受けている。



第22回日本臨床脳神経外科学会の市民公開講座が21日、岡山市内であり、筑波大大学院の山海嘉之教授と女子マラソン五輪メダリストの有森裕子さん=ともに同市出身=が講演。

約400人が聴講した。

山海教授は「サイバニクスで拓(ひら)く医療・福祉の未来」と題して、自ら開発したロボットスーツ「HAL(ハル)」を使った、身体機能を失った患者への治療について説明した。

HALは患者が体を動かそうとする際に脳から出る信号を感じて動作を助けるが、治療を重ねるうち多くの患者で機能が回復し、欧米やアジアでも活用が広がっていると紹介。

「人間を中心に据えた医療イノベーションを推進し、実用化する仕組みを整えたい」と述べた。

有森さんは「二度とやってこない一瞬一瞬を精一杯いきること」のタイトルで「恩師らの言葉で夢をあきらめず頑張ってこられた」と話し、前向きな言葉でプラスの生き方ができると強調した。

令和元年 7月 30日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 7月30日
出張先	真庭市（落合総合センター・現地研修 農業法人寄江原圃場）
出張内容	スマート農業技術の開発・実証プロジェクト現地研修会
応対者	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト現地研修会 「SDGs未来杜市・真庭スマート農業オープンラボ」</p> <p>【概要】</p> <p>会場： 室内研修 真庭市落合総合センター 現地研修 農業法人寄江原圃場</p>
概要所感	<p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>SDGs未来杜市・真庭スマート農業オープンラボの概要 中島一郎主幹（真庭市産業観光部農業振興課）</p> <p>スマート農業の今とこれから 研究開発経過・実用化状況と今後の展望 革新工学研究監 吉田智一氏（農研機構 農業技術革新工学研究センター）</p>



農業法人寄江原圃場では、国からの1億円の支援を受けて実証事件を行っています。

中島一郎主幹(真庭市産業観光部農業振興課)

革新工学研究監 吉田智一氏



令和元年 8月 2日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 8月1日から8月2日
出張先	東京都(ビッグサイト 国際会議場)
出張内容	全国地方議員サミット2019
応対者	早稲田大学マニフェスト研究会
概要	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 全国地方議員サミット2019に出席する テーマ:「チーム議会が地域をよりよくする」</p> <p>【概要】 末尾に2日間のサミットの次第あり。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>議会改革に取り組むためには、それぞれの議会議員は、方向性を共有し取り組んでいかなければなりません。</p> <p>それぞれの市町村の実情もあります。</p> <p>サミットに参加し、そのぞれの現状の取組を把握するためには、最良の講演であり、3回連続での参加となります。</p> <p>津山市は、議会基本条例を本年4月1日から施行しているので、条例を今後どう生かし、改正していくかが課題となります。</p> <p>共通のテーマは「チーム議会」</p>

「チーム議会」

独任に首長が民意に問い合わせ、民意に応えようとする施策を打ち出すなら、これに対し議会が存在理由を示すには「チーム議会」の実現が必要である。

「チーム議会」とは、議員が会派などの相違を超えて、あたかも一人の議会人のように意思決定できる主体になることである。

しかし、議員は集合体としてのまとまった意思を形成しにくい。

そこで、合議体として議会が体を成すためには、様々な意見や議論を1つの意思に集約しなければならない。

それに不可欠なのが対話・調整・集約のための議員間討議である。

津市議会では、開催の意見はあるが、実現できていない。

改めて、なぜかを議員相互で考える必要があります。

例えば、政策討論会議という場を設定し議員間で調査・検討・議論を重ね、代表者が政策提言をまとめる。集約した意思を提案すれば、首長も簡単には無視できない。

議員間討議とその集約こそが議会たるもの本質であり、これが「チーム議会」なのだ。

市民の声が反映される市政を行うため、より強い推進力を持った議会にしなければならない。

大津市議会の議会改革(事務局長)

2009年から大津市の議会事務局(現議会局)の配属となり、議員による議会改革を支えてきた。

その経験から改革には、議員と事務局の職員が一緒に取り組む「チーム議会」という意識を持つことが大切だと考える。

議会事務局の仕事は議事録を作ったり、議会の運営を手助けしたり、議員の質問を市長ら行政の執行部側に通告したりするだけではない。議員を「先生」と呼んでいては、議員の仕事を人ごとと思ってしまう。前例踏襲に陥っていると何も変えることはできない。

まず意識改革が必要だ。議員を名前で呼び、職員との関係は上下ではなく、議員の足りないところを職員が補強するようなフラットの関係でありたい。職員は議会の黒子ではあるが、参謀の役割も果たしていきたい。

地方自治体での首長の力は絶大であり議会の役割は大きい。役割には、市長に対する監視機能と、政策立案の2つがある。監視機能は、議会で質問することが基本だ。

議会の存在感を高める意味からは、自ら政策を考え組み立てることに注力すべきだ。この政策立案に力を入れることで、議員の問題意識も高まり質問回数も増える。議会の監視機能を強め、活性化にもつながる相乗効果も期待できる。

大津市議会では、防災対策推進条例を議員提案で作った経験があった。

私が配属された後は、議長らの理解を得て、政策立案である条例作りを加速させることに力を入れた。



8/1-2 東京ビッグサイト 7F国際会議場

**全国
地方議会
サミット**

～チーム議会が地域をより良くする～

北川正勝氏 宇都宮大学名誉教授	西田哲郎氏 宇都宮大学教授	
日野 勝氏 山梨学院大学教授	飯島文雄氏 法政大学教授	
心地亮氏 安藤辰也氏	鈴木久氏 安藤辰也氏	諏訪城一 安藤辰也氏

▽プログラム

<1日目:8月1日(木)>

【基調講演】「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」13:00:13:20

●●正恭氏(早稲田大学名誉教授、元三重県知事)

【パネルディスカッション】「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」13:20:14:20

●江藤 俊昭氏(山梨学院大学教授)

●杉田 淳氏(NHK報道局選挙プロジェクト副部長)

●久保 隆氏(NHK報道局選挙プロジェクト記者)

【パネルディスカッション】「チーム議会に職員だからできること」14:20:15:20

●清水 克士氏(滋賀県大津市議会局次長)

●小原 昌江氏(岩手県北上市議会事務局議事課長)

●岩崎 弘宜氏(茨城県取手市議会事務局次長)

●小林 宏子氏(東京都羽村市議会事務局長)

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く(その1)」15:35:16:20

●松田 崇義 氏(株式会社メディアドウ smart 書記事業部長)

【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」16:20:17:20

●片山 善博氏(早稲田大学教授、元総務大臣)

【総括】17:20:17:30

●北川 正恭氏(早稲田大学名誉教授、元三重県知事)

<2日目:8月2日(金)>

【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」9:30:10:30

- 千葉 茂明氏(月刊「ガバナンス」編集長)
- 早苗 豊氏(北海道芽室町議会議長)
- 諸岡 覚氏(三重県四日市市議会議長)
- 梅村 均氏(愛知県岩倉市議会議長)

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」10:30:11:30

- 北川 正恭氏(早稲田大学名誉教授、元三重県知事)
- 谷畠 英吾氏(滋賀県湖南市長)
- 越田謙治郎氏(兵庫県川西市長)
- 上村 崇 氏(京都府京田辺市長)

【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」12:20:13:40

- 中村 健氏(早稲田大学マニフェスト研究所事務局長)
- 則武 宣弘 氏、中原 淑子 氏、林 敏宏 氏(公明党岡山市議団)

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く(その2)」13:00:13:40

- 米田 英輝氏(東京インタープレイ株式会社代表取締役)

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」13:40:14:30

- 佐藤 淳氏(青森中央学院大学准教授)
- 瀧野 良枝氏(長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポート)
- 原口佐知子氏(静岡県牧之原市 市民ファシリテーター)
- 田口 裕斗氏(岐阜県可児市議会高校生議会、現 立命館大学3年)
- 竹下 修平氏(愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長)

【パネルディスカッション】「国会は地方議会をどう見ているか」14:45:15:45

- 廣瀬 克哉氏(法政大学教授)
- 石破 茂氏(衆議院議員、元地方創生担当大臣)
- 稻津 久氏(公明党 衆議院議員、党地方議会局長)
- 逢坂 誠二氏(衆議院議員、元ニセコ町長)

【総括】15:45:16:00

- 北川 正恭氏(早稲田大学名誉教授、元三重県知事)

令和元年 8月 10日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 8月 10日
出張先	吉備中央町(
出張内容	「首都移転を考えるフォーラム」岡山県吉備中央町
応対者	
概要所感	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>大胆かつ興味をそそる題名に引きつけられて聴講しました。</p> <p>吉備中央町は、地震の被害も少ない岡山県ということを、地質学的な観点からの話を聴くため</p> <p>【概要】</p> <p>1)開会</p> <p>2)吉備中央町 山本正則町長 あいさつ</p> <p>3)第1部 基調講演 講師:高島哲夫氏 日本の中央「吉備高原」への遷都 首都移転構想と吉備中央町の未来を語る</p> <p>4)第2部 パネルディスカッション コーディネーター 岡山一郎氏(山陽新聞社) パネリスト 木村 敬氏(内閣府 板谷徹丸氏 山本正則氏</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>吉備中央町の地質の状況の説明を聴き、岡山県の安全性の客観的裏付けを確認できた。</p> <p>首都移転は夢物語のように捉えられているが、東南海地震を想定すると、地盤の安定した地域に主要な拠点施設の移転は考えなければならない。</p> <p>発生してから考えるのではなく、発生前に想定しておくことが必要！</p>

考察

疑問符を解消できる講演でした。

- ・首都移転構想による移転先は？
- ・安全・安心な岡山県とは？
- ・地方創生担当の木村氏がなぜこのファーラムへ出席？



災害の少ない吉備高原への首都移転を提案した高嶋さん（左）



首都を災害リスク低い吉備高原へ

首都移転を考えるフォーラム(岡山県吉備中央町主催)が10日、同町吉川のきびプラザで開かれた。

岡山、広島県に広がる吉備高原が安定した地盤を持ち、地震や台風などの災害リスクが少ないことを踏まえ、有識者が人口や経済の東京一極集中の是正を呼び掛けた。

玉野市出身で災害をテーマにした小説「首都崩壊」などの著者高嶋哲夫さん(70)=神戸市=は基調講演で、今後30年以内に南海トラフ巨大地震や首都直下地震が高い確率で起こるとの政府予測を紹介。

人やモノ、資本の集まる東京が被災すれば経済損失は100兆～200兆円規模に上るとし「災害の影響は日本だけに収まらない」。

世界恐慌の引き金となり、大惨事を招く」と強調した。

被害の抑制に向けて安全な土地への首都移転を提案。

移転条件として、災害が少なく交通の便が良い立地を挙げ「吉備中央町は空港に近く、首都機能を移転するだけの十分な土地もある」と適地であることを説明した。

内閣府地方創生推進事務局の木村敬前企画官、地質学研究者らでつくるNPO法人・地球年代学ネットワーク(岡山市)の板谷徹丸理事長ら4人によるパネル討論もあった。

県内外の380人が聴講した。



日時 令和元年8月10日(土)13時30分～16時10分 [開場13時00分]
会場 さひづら3ホール(岡山市駅前) 座員 300名

岡山の“おへそ”から、日本の“おへそ”へ
岡山市は、これまでに多くの災害で大きな被害を受けた。本論では、吉備中央町を含む吉備高塚地域の防災対策について議論します。また、吉備中央町は、吉備高塚地域の中心的な役割を果す重要な位置にあります。



著者 高嶋哲夫
REIWA 8.10 sat



パネルディスカッション
「吉備中央町への道筋」
吉備中央町と吉備高塚地域の未来を語る

8.10

首都移転を考えるフォーラム

日時 令和元年8月10日(土)13時30分～16時10分 [開場13時00分]

会場 さひづら3ホール(岡山市駅前) 座員 300名

1. 地質作家 高嶋哲夫 2. パネルディスカッション

「日本の中央「首都崩壊」への道筋」
—吉備中央町と吉備高塚地域の未来を語る—

主催 地球年代学ネットワーク

会場 さひづら3ホール(岡山市駅前)

座員 300名

開場 13時00分

開演 13時30分

終演 16時10分

料金 入場料 1,000円

TEL 0867-34-1116

FAX 0867-34-0401

MAIL info@reiwa.jp

QRコード

吉備中央町合併15周年記念

REIWA

8.10
sat

人口や政治的機能など、あらゆる物事が首都・東京に一極集中している日本。首都一極集中によって地方は過疎化が進んで弱体化し、それが食糧自給率や保険・医療サービスの低下といった問題につながっています。また今後30年以内に70%の確率でM7クラスの首都直下型地震が発生すると推測されています。そうなれば政治的機能は失われ、首都圏一帯は災害対策もままならない状況が陥り、企業の本拠地が崩壊することで日本経済に大きな打撃を与える可能性があります。この地域に住んでいても健全な社会生活を送ることができるような環境を整えるために、また災害が首都機能に与えるダメージを緩和するために、「首都一極集中の分散化」は今後の日本にとっての最重要課題とも言べき事柄なのではないでしょうか。

一方、東日本大震災以降は首都圏から地方への移住者が増加傾向にあります。その中でも岡山県は比較的災害の少ない地域として移住者に人気のエリアとなっています。特に吉備中央町を含む吉備高塚一帯は、活断層がないことと、古い骨董であることが挙げられ、より安心・安全を暮らしを求める移住者に近年注目されています。

そこで今回、「首都崩壊」というテーマとした作品を多く上梓されている人気作家・高嶋哲夫氏をお招きし、「日本の中央「吉備高塚」への道筋」～吉備移転構想と吉備中央町の未来を語る～と題した基調講演と、首都一極集中の分散化を通じて打ち出される「地方創生」について、様々な分野からエキスパートを招いてパネルディスカッション形式で考えていく。

令和元年 8月 19日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 8月19日
出張先	山陽新聞 さん太ホール
出張内容	吉井川流域魅力発信ファーラム
応対者	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 吉井川源流を活かした、DMOの取組を研究する。</p> <p>【概要】</p> <p>基調講演 広域連携で紡ぐ地域の未来 藻谷浩介氏(日本総合研究所主任研究員、新見公立大学客員教授)</p> <p>パネルディスカッション 藻谷浩介氏、渡邊知美氏(岡山県備前県民局長)、友實武則氏(赤磐市長)、三好宏氏(吉井川流域DMO有識者委員、岡山商科大学経営学部商学科長)</p> <p>パネリスト コーディネーター 岡山一郎氏(山陽新聞編集委員室長)</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>観光客は、宿泊者数で数えること 今だけ！ここだけ！あなただけ！が大切です。 津山市観光DMOの推進の参考になる内容の話が聴けた</p>



会場での写真撮影は禁止の為、FBから引用させて頂きました。

「産官学金労言」の組織体制を構築されているとの印象を持ちました。

「言」ではDMOの理事長が山陽新聞社代表取締役会長

コーディネーターが山陽新聞編集委員室長

主催は、山陽新聞社

司会 テレビせとうちアナウンサー

藻谷浩介先生の講話でのポイント

- ・「イメージ」や「空気」は事実と違う

常に事実を数字で確認しないと間違える。

例示: 日本での殺人事件の認知件数は増えているかどうか?

日本の輸出は20年前と比べて増減どちらか?

日本の国際収支の推移はどうか?

今伸びている産業はなにか?

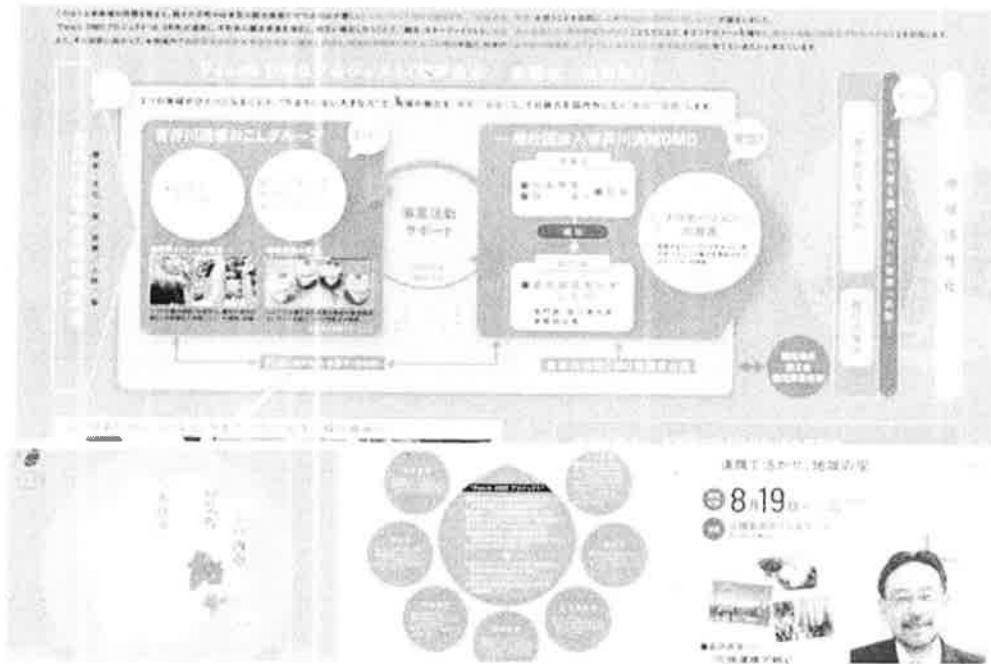
矢継ぎ早に先生から会場に質問が投げかけられました。

「あなたの昭和度をチェック」する質問でした。

観光客は、宿泊者数で数えること

真面目になるとお客様が集まる

今だけ!ここだけ!あなただけ!が大切です。



津山市でも日本版観光DMOの取組みが進められているが、「昭和の頭で考えていないだろうか？」
市役所の職員のお顔は見えたが、観光協会の職員さんは聴講されていたのだろうか？

※職員さんの顔と名前が一致していないのは、私だけかもしれません。

地域商社の取組みも進められているが、今日の話を聴いていると、観光DMOと地域商社は関連性を持っている。

8月20日に「地域商社の勉強会」をするので、このことについて確認をしておこう。

今伸びている産業(2007年から2017の増減率)

- ・農業産出総額 12%UP
- ・林業産出総額 6%UP
- ・漁業産出総額 -4%DOWN
- ・製造業出荷額 -10%DOWN

令和元年8月19日 さんデジ
吉井川流域の魅力発信へ意見交換
岡山でフォーラム

吉井川流域にある瀬戸内、赤磐市と岡山県和気町の魅力発信を目的としたフォーラム（山陽新聞社主催）が19日、岡山市北区柳町の同社さん太ホールであった。

3市町の広域観光振興に取り組む一般社団法人「吉井川流域DMO」の役割などについて、地元首長や有識者ら4人が意見を交わした。

「DMOを核とした観光地域づくり」と題したパネル討論で、赤磐市の友実武則市長は同市を練習拠点とするバレーボールVリーグ女子・岡山シーガルズとの合同合宿で大学生らが年間1万人訪れているとし、「潜在的な宿泊需要がある」と指摘。

岡山商科大の三好宏教授は宿泊施設が不足する現状を解決するため、ゲストハウスを始めたい人を誘致するアイデアを披露した。

海外からの誘客に力を入れる同DMOについて、県備前県民局の渡辺知美局長は「（名刀の里・備前長船で）外国人に刀を研いでもらうような、とんがった企画を期待したい」と強調。

日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員は「地元にお金が落ちるやり方を知っている地域が活性化している」とし、地域内で経済を循環させる重要性を訴えた。

開会あいさつで同DMOの越宗孝昌代表理事（山陽新聞社会長）が「観光は成長が見込める産業。地域の個性を大いに發揮し、地域を元気にしていきたい」と述べた。
パネル討論に先立ち、藻谷氏による基調講演もあった。

令和元年 8月 24日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 8月 24日
出張先	岡山市 サン・ピーチ岡山
出張内容	「幼児教育無償化」と給食問題の学習会
応対者	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>「幼児教育無償化」と給食問題の学習会し、消費税増税による、子育て支援に関する今後の課題を探る</p> <p>【概要】</p> <p>講義1 逆井直紀先生(保育研究所) 幼児教育無償化と施設利用給付の問題点と全国の動き</p> <p>講義2 田村和之先生(広島大学名誉教授) 子供子育て支援法の改正「無償化」給食費等の法的検討</p> <p>概要所感</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 10月の消費税率10%への変更に伴い、どのような課題が生じてくるかを聞き取ることをできました。</p> <p>9月定例議会の一般質問にて、津山の現状を確認する。</p>

日本の公的保育制度について確認することができた。

幼児教育無償化の概要と影響、課題

・無償化給付の実施主体は市町村である。

・無償化の対象

3歳児以上の児童が対象

0歳から2歳児は住民税非課税世帯に限定

※3歳児は、保育園等を利用している1年間の内に3歳を迎える。

自治体の課題

無償化実施に向けた準備

膨大な実務作業があるといわれた。

具体的な業務内容とは？

給食費の徴集方法

学校給食の徴集対応に苦慮している現状からの自治体の対応

津山市は、どのような対応を取るか？

職員の負荷は

3歳までは自宅で、3歳になつたら保育所へ通園させようとの考え方への対応

すでに、起こっている。



令和元年 8月 28日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 8月 28日
出張先	大阪市(グランドフロント大阪北館タワーB 10階)
出張内容	「住民サービスの向上と行政業務の効率化に向けて」
応対者	時事通信社
概要感	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 「住民サービスの向上と行政業務の効率化に向けて」 自治体デジタル化</p> <p>【概要】 基調講演1 デジタル手続きなど地方自治体のデジタル化の最近の動向 企画官 浦上哲郎氏</p> <p>基調講演2 より良い政策立案のために ～EBPMの推進～ 政策評価課長 越尾 淳氏</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 当日入手した資料は、早々に津山市の関係部署に配布すると共に、今後予定されている自治体ピッチについて、ネット配信を視聴するよう勧める。</p>

8月26日のブログ「総務省ー先端技術活用へ研修強化」は、霞が関では着々と進められています。

知らぬは、わが身なり！です。

表現が悪いかもしれません、掛け算九九ができるまま高校生になってしまいます。

法律も施行されています。

まとめは後日となりますが、時代に取り残されないためにしっかり把握しておく必要を感じた講演でした。

・マイナンバーカードの保持は必修となるでしょう。

・EBPMの推進？

※浦上哲郎氏の講演資料は、ネットからダウンロードしてください。とのこと

PCを使えない人に限って、不親切だ！と言われるでしょうが、ごく当たり前な対応です。

「不易流行」です。



13：15 開会・基調講演会

「デジタル手続法など地方自治体のデジタル化の最近の動向」

内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 基調官 須上 哲朗（ららかみ・てつろう）氏
（ご経歴）平成11年 4月 球磨谷村議長
平成18年 4月 東京・千葉・埼玉・神奈川・東北各県市町村議長会議長
平成21年 4月 地方省令監修行政規の審査評議会議長
平成22年 4月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成22年 10月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成23年 7月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成25年 7月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成26年 7月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成27年 7月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成28年 7月 地方省大臣前田厚生労働相直属
平成30年 7月 内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室室長



14：30 基調講演会

「より良い政策立案のために～EBPMの推進～」

総務省 行政評価局 政策評価課長 越尾 淳（こしのお・あつし）氏
（ご経歴）平成9年 地域行政課
平成23年 政務省大臣・恩給企画室補佐
平成24年 内閣府国際化推進室事務取扱
平成26年 政務省大臣官房企画室補佐取扱
平成27年 内閣官房政策企画室事務取扱
平成29年 内閣官房行政改革推進本部事務官（現内閣官房行政改革推進本部事務官
企画室） 政務省行政評価局政策評価課長（現職）



平成 元年 9月 3日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 9月 3日
出張先	山陽新聞 さん太ホール
出張内容	講演 令和時代の地域をつくる
応対者	主催:山陽新聞社
	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム「令和時代の地域をつくる」の第2回は「地域に根ざしたライフスタイル」をテーマに、9月4日午後2時から岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。 地域の資源を生かした豊かな暮らしを考える。</p> <p>【概要】 山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム「令和時代の地域をつくる」の第2回は「地域に根ざしたライフスタイル」をテーマに開催されました。</p> <p>所感 地域の資源を生かした豊かな暮らしを考える。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】 1999年創刊で、環境や社会などのトピックを取り上げる雑誌「ソトコト」の編集長指出(さしで)一正さんが基調講演。指出さんは「わたしたちは地方で幸せを見つける」と題し、自然や歴史、文化を持つ地方の暮らしを見直されている現状や地元の底力を引き出す秘訣ひけつなどを話す。</p> <p>パネルディスカッションは指出さんと、木質バイオマス発電などを活用した活性化に取り組む真庭市の太田昇市長、山陽学園大地域マネジメント学部の白井信雄教授、森林ボランティアの梅谷奈々さんが、NPO/NGOによるSDGsネットワーク岡山の石原達也会長と山陽新聞社編集委員室の岡山一郎室長の司会・進行で意見交換する。</p>

基調講演の指出一正(さしで)編集長が基調講演。

イワナ、と日本バラタナゴが住む地域 岡山！

関係人口増に向けて、関係案内所の設置へ

自分ごととして考え方取り組むことの重要性

地域を編集する（高知県津野町）

ときめく村にであった（奈良県下北山村）

第2部 パネルディスカッション

パネラー 指出正一氏 太田昇・真庭市長 白井信雄・山陽学園大地域マネジメント学部教授 森林ボランティアの梅谷奈々氏（美作市上山地区への移住）

司会進行 石原達也氏 NPO／NGOによるSDGsネットワークおかやま 岡山一郎氏 山陽新聞社編集委員室

木質バイオマス発電の取り組みで先進的な真庭市の事例や美作市上山地区への移住の実践例などを紹介した上で、東京などへ人やお金が流れる依存型の社会システムから脱却し、エネルギーの地産地消や経済の地域内循環を進める必要性が指摘された。

岡山の資源や文化、自然を生かして地域が自立した暮らしが、持続可能で活力ある社会づくりにつながるという考え方を共有した。観光以上、移住未満で地域に関わる「関係人口」を増やす重要性を述べ、「自分の住む地域の良さを確認し、外から関わる人と一緒に楽しんで未来をつくる。

小さな作用は大きな効果を生む」と訴えた。

約200人が聴講。

シンポジウムは来年春までに計5回開催し、次回は11月11日の予定。



基調講演する雑誌「ソトコト」編集長の指出氏



地方の資源有効化と経済循環を構める地産づくりなどを語ったパネルディスカッション



山陽新聞創刊140周年を記念してスタートした連続シンポジウム「令和時代の地域をつくる」=岡山市北区柳町、山陽新聞社さん太ホール

平成 元年 9月 29日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 9月 29日
出張先	倉敷市民会館
出張内容	第4回スイング甲子園を鑑賞
応対者	勝北中学校 筒塙校長
	<p>【種別】 <input checked="" type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】</p> <p>催しの名称「スイング甲子園」とは?を確認し、津山国際音楽祭が新たな形に変わることも併せて、津山文化センターの活用手法の提言のために、鑑賞する。</p> <p>【概要】</p> <p>岡山県内の中学、高校の吹奏楽部17校が参加した第4回「おかやまスイング甲子園」が倉敷市民文化会館で開かれた。</p> <p>所感</p> <p>津山市立勝北中学校が出場しました。</p> <p>【具体的な成果・効果、市政への反映等】</p> <p>出演者(中学生、高校生)と観客席が一体となった素晴らしいパフォーマンスを体感できて感動です。</p> <p>大変お金がかかっている吹奏楽音楽祭です。 高校生や中学生の力強さを感じることができました。</p>



ピッチはチャンス！勝北J・G・S ウィンドアンサンブルチームです。

エントリーNo.3 津山市立勝北中学校



曲名
ショートカット
「シンク・シング・シング」

曲名
「ウィーアー！」

曲名 津山市立勝北中学校

曲名 津山市立勝北中学校

曲名 青山一女流作

曲名 20名

みなさんの元にちは4年生、3年生、2年生、1年生、計26人だ。
皆年に絶対2度目のオーディションです。
本番から無く差のない声種を受けアーティスト心から楽しむにこだわる
スウイング甲子園上位はターンは、競争と喜びを味わうことができる
「あきらめない挑戦力」を最もに前面あるのみです。



● 第一回「歌と音楽」発表会音楽祭
● 第二回



● 第一回「歌と音楽」発表会音楽祭
● 第二回

17校(700人)の吹奏楽部のみなさん、「感動をありがとう！」

【優勝】は、岡山東商業

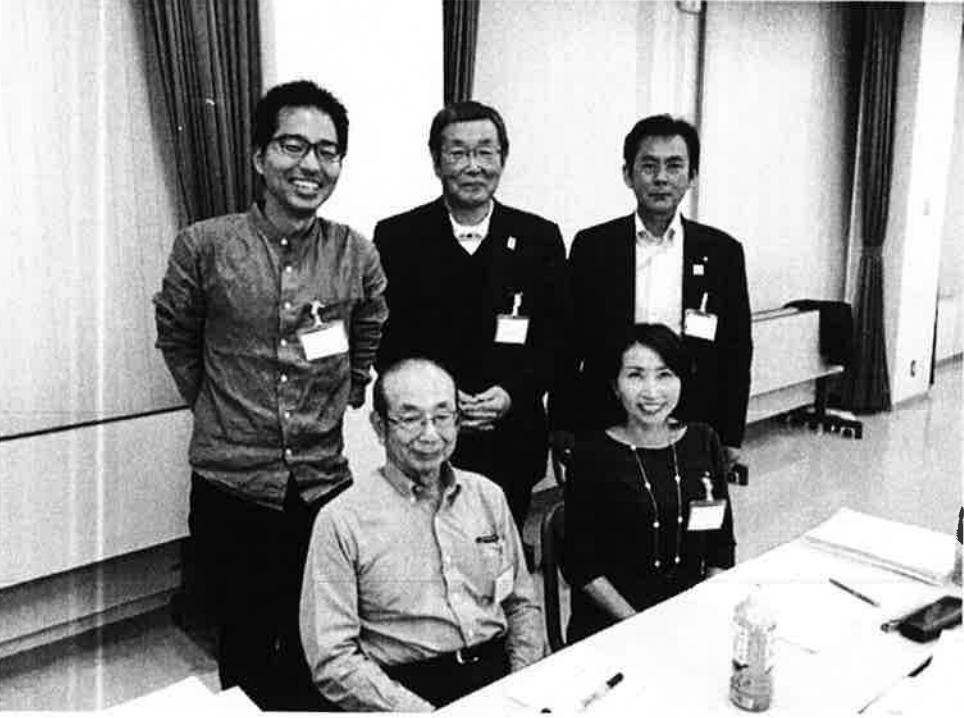
【準優勝】水島中 【パフォーマンス部門】福田南中 【音楽部門】天城中・高 【指揮者部門】東陽
中

入場者数 2000人

令和 元年 10月 25 日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年10月 23日 ~ 令和元年10月 25日
出張先	全国市町村国際文化研修所
出張内容	地方分権と自治体の行政改革の研修を受講する
応対者	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 地方分権と自治体の行政改革」の研修を受講し、地方分権について学ぶ</p> <p>【概要】 全国から64名の市町村議会議員の参加のもと、全国市町村国際文化研修所(JIAM)に参加しました。(概要)</p> <p>【所感】 地方分権改革について、特区だけでなく、内閣府に提案することにより、法律、規則を変えることができる。ことを知る</p>
概要 所感	

●地方行政をめぐる最近の動向

総務省自治行政局行政課長 阿部知明氏

地方制度調査会における概要や今後の審議、自治体と民間企業との協働、

進められているマイナンバーカードの利用促進策等、

地方分権や行政改革等に関する最新の動向や今後の見通しを聴きました。

●地方分権時代のまちづくり

兵庫県養父市長 広瀬 栄氏

国家戦略特区制度を活用した、地方創生に向けての様々な分野での取り組み事例について、お聴きました。

市職員が積極的に課題を掘り起こし、施策を考え、形にすることで、職員のやりがいにも繋がり、他市町からの若い職員さんも増えているとのことでした。

●地方分権時代の中で地方自治体に期待される役割

人口減少を見据えた取組?

内閣府地方分権改革推進室 参事官 萩原英樹氏

地方分権改革は、自治体(地域)に即した住民サービスの向上と行財政の効率化を進めることであり、それぞれの自治体(地域)の実情・支障事例等に合わせて、制度を変えたり、規制を緩和できることを聴きました。(知らなかつた！反省です。)

グループワークで11班として、公務員の兼務について意見交換し取組をまとめ、発表いたしました。



●地方分権の展望

一橋大学大学院法科研究科 教授 辻 琢也氏

少子高齢社会においても、行政が今後取り組むべきことや課題等についてお聴きしました。

客観的データの提示を受けましたので、津山市に置き換えて考えていく必要があります。

●分権時代における地方議員のあり方

明治大学政治経済学部地域行政学科長 教授 牛山久仁彦氏

地方分権による首長権限の強大化、「強い首長と弱い議会」の課題解決のための議員の意識改革・議会運営方法の改革、議員定数や報酬の課題等についてお聴きしました。

今回の研修は、密度が濃く120%満足しております。

これをいかに生かすか！が重要です。

津山市から3名の議員が参加していましたので、後日相互の意見を持ち寄り共有していきたいと考えています。



地方分権が解る番組が制作されていました。

皆さん是非ご覧ください。

The screenshot shows the homepage of the 'Government Information Online' (政府広報オンライン) website. At the top, there's a navigation bar with links to various government departments like Health, Welfare, and Education. A large banner in the center features a woman and a man, with text in Japanese. Below the banner, there are several smaller boxes containing news snippets and links to other pages. On the right side, there's a sidebar with a ranking of the most accessed pages.

政府広報オンライン

<https://www.gov-online.go.jp/>



BS放送の政府広報の番組

<https://www.gov-online.go.jp/pr/media/tv/shiritai/movie/20181216.html>

令和 元年 10月 26日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年10月 26日 ~ 令和元年10月 26日
出張先	真庭市北房文化センター
出張内容	集落のあり方を考えるシンポジュウム
応対者	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 集落のあり方を考えるシンポジュウム</p> <p>【概要】 集落のあり方を考えるシンポジュウム ～暮らしと誇りの持続～ 会場:真庭市北房文化センター 林直樹准教授 金沢大学人間社会研究域 人間科学系 過疎・無居住化の現状と集落維持の手法 数十年スケールの生き残り戦略を考えてみる</p> <p>【所感】 真剣に取り組んでいる地域には、必ず、招聘する担当者及び応援団がいます。</p>

過疎が山から下りてくる時代

財政の健全化については別問題と考える

「保険的な選択肢」

集落の将来については「わからない」と考える

「減っても大丈夫な姿」を描く

全国の事例の紹介があいました。

手段としての集落移転

ヒノキ純林(人工林)は放棄すると表土が浸食されやすくなる。

広葉樹の多い針広混交林に誘導する。

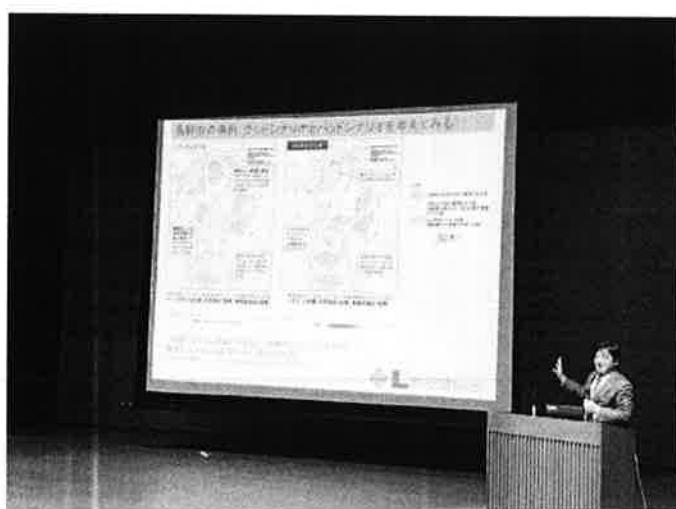
集落を消滅させないための問(地域住民へのメッセージ)

あきらめるものを間違わなければ、集落は消滅しない。

議論を不毛なのににするための六つの方法

※やっちゃあいけない議論

- ①危機を誇張する
- ②個々の違いを無視して十把一からげに叫ぶ
- ③当事者でない人が「良否」の判断を押し付ける
- ④「Will」「Can」「should」を区別しない。
- ⑤選択と集中をタブーにする。
- ⑥未来を一つだけと考える



林直樹先生のお話しを聴くのは、2回目です。

前回は、中国5県リレーフォーラム 岡山(平成30年1月31日)

パネルディスカッション

- ・NPO法人TEAM旦波(たにわ) 京都府 小山元孝氏
- ・十津川村総務課企画グループ 奈良県 玉置広之氏
- ・金沢大学人間社会研究域 人間科学系 林直樹准教授

最初に2二人から講話がありました。

・NPO法人TEAM旦波(たにわ) 京都府 小山元孝氏

消えない村

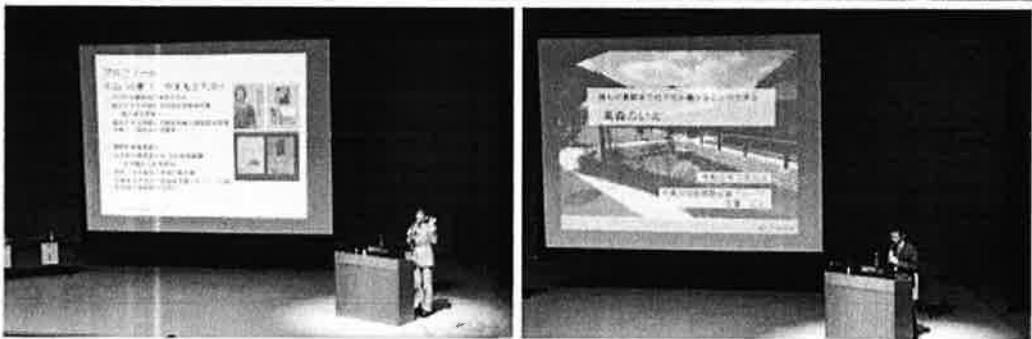
京丹後市の離村村集落とその後

・十津川村総務課企画グループ 奈良県 玉置広之氏

誰もが最後まで村で住み続けることができる「高森の家」

平成23年8月25日の台風12号による大水害で、山々が深層崩壊を起こし、孤立村が生じた

高森地区に高齢者専用住宅を建設し、村内での移転(集落移転)の施策を取る



令和 元年 11月 2日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年11月 2日 ~ 令和元年 11月 2日
出張先	岡山市(岡山大学)
出張内容	OKAYAMAスマホサミット2019
応対者	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 スマホの取り扱いについて、高校生の考えを聴く</p> <p>【概要】 「OKAYAMAスマホサミット2019」(岡山県教委、岡山市教委、山陽新聞社主催)の成果報告会 会場:岡山大創立50周年記念館</p> <p>概要感 【所感】 都合をつけて、毎回聴講しています。 スマホは使い方によって、学習に役立つ道具であり、保護者がしっかりと子どもに目を向け使用状況を把握しておくことが必要と感じる。</p>  <p>記念写真撮影時は、やり遂げたという感動が客席まで届く</p>

小中学生部会は、製作した啓発授業用の動画を紹介。

- ・無料通信アプリLINE（ライン）のやり取りで仲間外れにされる
 - ・スマホの使いすぎでテストの点数が下がった
 - ・未成年が喫煙する様子が無断投稿されて退学処分になる
- といったオリジナル啓発教材（動画）の発表と聴講者による評価



パネルディスカッション

コーディネーター

兵庫県立大の竹内和雄准教授が

パネリスト

小学生 1名 中学生3名 高校生2名 保護者 1名 鍵本芳明県教育長（8人）の意見交換

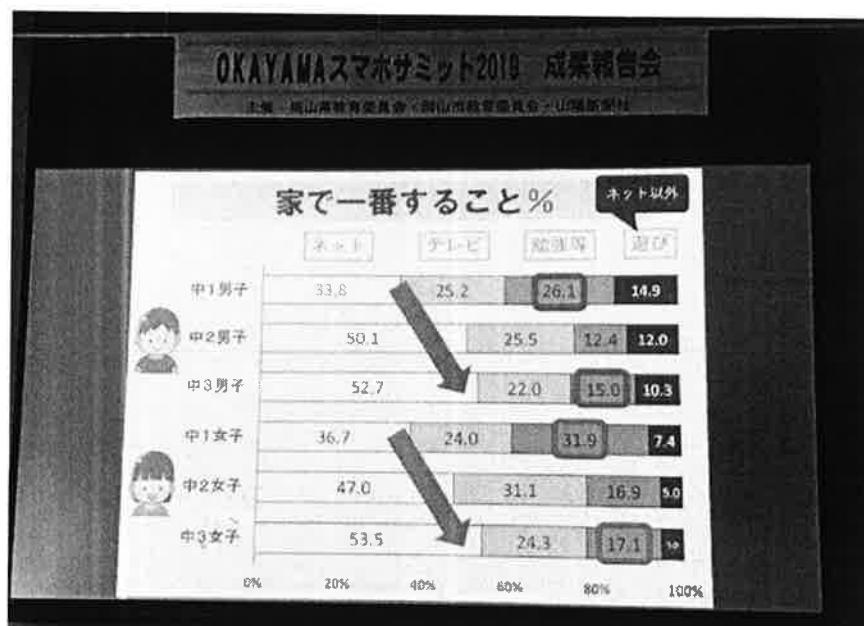


子どもからは

「友達との連絡や調べ学習などスマホは生活必需品になっている」

「禁止するばかりでなく、危険性を知った上で上手に使う方法を考えていく時代だ」

「ルールを一方的に押し付けず、子どもと一緒に考えてほしい」の意見が出ました。





スマホ太郎の知恵袋

Q スマホをついつい勉強中にさわってしまいます。どうしたらいいでしょうか？

A 勉強中はスマホの電源を切り、手の届かないところに置きましょう。

できれば、置く場所を決めましょう。それでもだめなら親に預けましょう。

恥ずかしい話ですが、会議中にスマホをさわっている人を見受けます。大人も一緒のことです。

会議中は、スマホを一定の場所に置くようにしましょう。私は控室に置いています。

令和元年 11月 5日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 11月 4日 ~ 令和元年 11月 5日
出張先	東京都
出張内容	経済産業省、内閣府訪問
応対者	蟹江総括係長(経済産業省 資源エネルギー庁 長官官房 総務課 戦略企画室) 内閣府地方分権改革推進室(目黒参事官補佐、小林主査)のレクチャーを受ける
概要所感	<p>【種別】 ■調査研究・視察 ■要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 エネルギー政策の方向性 地方分権改革(公募提案方式)について</p> <p>【概要】 震災前から現在までの電源構成などの推移について エネルギー基本計画とエネルギー・ミックス</p> <p>平成26年度から導入しており、地方の意見を反映した制度。 地方分権改革は、地域課題を解決する地方創生のツール 津山市での研修会開催の要請を行う</p> <p>【所感】 国のエネルギー基本計画を確認することができ、津山市での取組可能内容に基礎学習ができた。</p> <p>地方分権改革(公募提案方式)について、行政が窓口にならないこと、募集提案が出来ないことを再確認できた。</p> <p>12月議会で、参加の3人が同じ質問をし、津山市に行動を促すこととする。</p>

経済産業省 資源エネルギー庁でレクチャーを受ける。

蟹江総括係長(経済産業省 資源エネルギー庁 長官官房 総務課 戰略企画室)



議題:エネルギー政策の方向性

震災前から現在までの電源構成などの推移について

エネルギー基本計画とエネルギー믹스

3E+Sに関する政策目標

第5次エネルギー基本計画における原子力の扱い

2030年エネルギー믹스の実現、2050年のエネルギー転換への挑戦

水素基本戦略のポイント

※提供いただいた資料を基に研究を進めます。

内閣府地方分権改革推進室のレクチャーを受ける

目黒参事官補佐、小林主査



地方分権改革とは

提案募集方式について

平成26年度から導入しており、地方の意見を反映した制度である。

地方分権改革は、地域課題を解決する地方創生のツール

令和元年10月25日の研修(JIAM)でこのことを知り、直接内閣府からその詳細を聞き取ることを目的としました。

頂いた資料は、会派(未来)で共有すると共に関係部署にその内容を確認していただきたいと考えています。

受領した資料

- ・あなたの声で日本の法律・制度が変わる。
- ・「提案募集方式」の活用と一緒にかんがえませんか？
- ・地方分権改革・提案募集方式ハンドブック
- ・地方分権改革・提案募集方式 「取組・成果事例集Vol.1」
(議員図書館で閲覧できるように準備します)

予定時刻の合間を捉えて、国会議員（小野田先生・阿部先生）を訪問、国会委員会を傍聴

- ①小野田紀美参議院議員室を訪問
- ③阿部俊子衆議院議員室を訪問
- ⑤防衛省 安全保障委員会を傍聴する。（国会議事堂内）
- ⑥阿部俊子議員室を再訪、面談する。

委員会傍聴席へは、筆記用具のみ持ち込み可能で、手荷物等は、ロッカーに保管してからとなります。

国会内では、秘書の方の同行が必修であり、勝手に歩きまわることができません。

傍聴終了後、委員会傍聴受付のところまで、竹山秘書に迎えに来てもらいました。

傍聴時は、照屋寛徳先生（てるや かんとく 立国社）の質問の時でした。

<https://www.youtube.com/watch?v=3GNjipzk6L8>

議事録は後日公表されます。

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaihoku.nsf/html/kaihoku/0015_l.htm



令和 元年 12月 24日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和元年 12月 23日 ~ 令和元年 12月 24日
出張先	長野県松川町
出張内容	ノウフクJAS取得団体を視察
応対者	松川町長 佐藤町議
概要 所感	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 「ノウフクJAS」登録認証機関の視察</p> <p>【概要】 本年3月に制定された「ノウフクJAS」について、令和元年11月1日(金曜日)、登録認証機関により、第1号の認証事業者として4事業者が認証されました。(1)株式会社ウイズファーム(長野県) 長野県松川町で、リンゴやリンゴジュース等の生産加工 (2)株式会社ひだまり(長野県) 長野県松川町で、リンゴやリンゴジュース等の生産加工</p> <p>【所感】 ひだまりは、障害者就労支援施設であり、ここの従事者が株式会社ウイズファームで作業を行っている。</p> <p>ノウフクJAS取得には、多くの資料を作成しなければならない。</p>



松川町議会 佐藤史人(ふみと)議員にお世話になり、松川町内をご案内頂きました。



宮下松川町長 表敬訪問



株式会社 ウィズファーム(長野県)

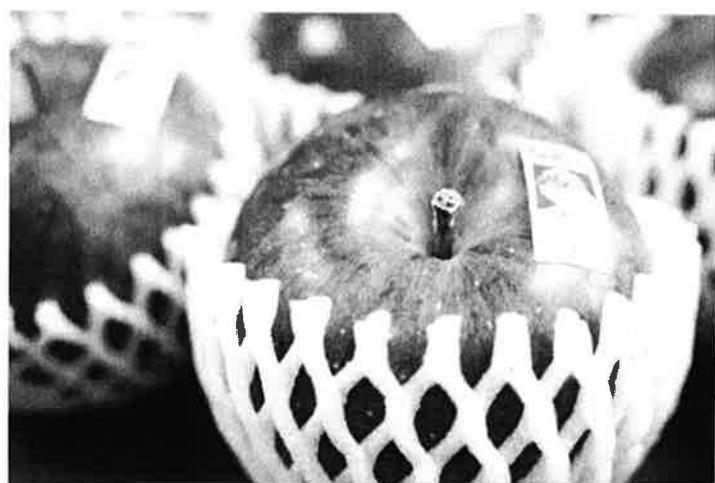
「農福連携」とは?

日本の古き良き結びつきを、現代に適した形で再生させたい。

ノウフクPROJECTが手がける「農福連携」は、その第一歩です。

働く場としての農業と、働き手としての障がい者をつなぐこと。

そこから多様性に富んだ地域コミュニティを生み出し、日本の食、経済、暮らしを元気にしていきます。



ノウフクJASについて

平成31年3月に制定された「ノウフクJAS」について、令和元年11月1日(金曜日)、登録認証機関により、第1号の認証事業者として4事業者が認証されました。

(1)株式会社 ウィズファーム(長野県)

長野県松川町で、リンゴやリンゴジュース等の生産加工

(2)株式会社ひだまり(長野県)

長野県松川町で、リンゴやリンゴジュース等の生産加工

(3)山城就労支援事業所「さんさん山城」(京都府)

京都府京田辺市で、お茶やえび芋等の生産加工

(4)特定非営利活動法人すまいる(愛知県)

愛知県春日井市で、ナスやオクラ等の生産

農林水産省のページ

<http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/191101.html>

令和元年 12月 24日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

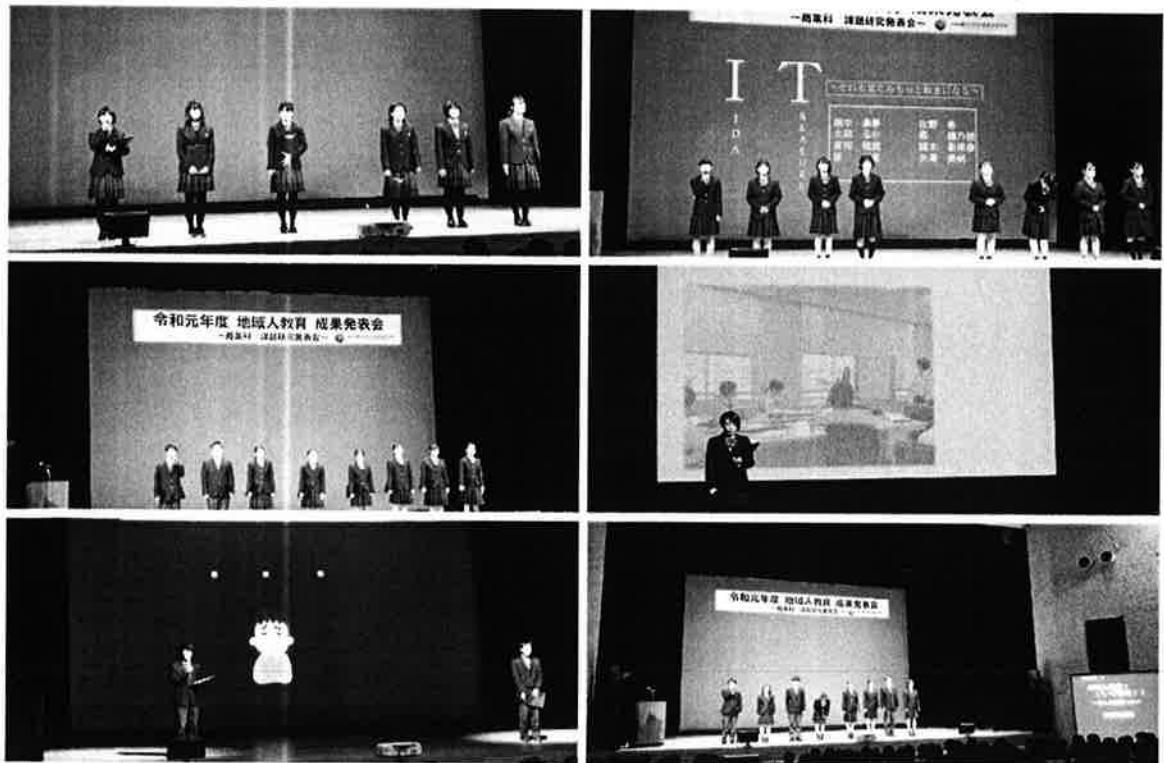
出張期間	令和元年 12月 23日 ~ 令和元年 12月 24日
出張先	長野県飯田市
出張内容	飯田OIDE長姫高校 地域人教育学習成果発表会
応対者	飯田市長 牧野光朗氏、
概要 所感	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 飯田OIDE長姫高校 地域人教育学習成果発表会</p> <p>【概要】 飯田OIDE長姫高校 「地域人教育学習成果発表会」 12月24日 9:15~ 会場:鼎(かなえ)文化センター 発表:商業科の生徒のみなさん。</p> <p>【所感】 11月1日会派視察で伺った時、地域人教育学習成果発表会の開催についてご案内を頂き、是非聴講させて頂こうと考え再度飯田市を訪問させて頂きました。 地域に入り込み、市民の支援、協力を得て、しっかりとまとまった発表を聴講でいました。 これから、若い世代の意見を参考にしながら、まちづくりを行う必要を感じる。</p> 

開会式では、原康倫(やすつね)校長先生から、「どのような地域課題を取り上げ、どのような連携を構築して、どのように研究し、何を実践して、それがどのように地域を豊かにして、さらに持続可能なビジネスにつながる可能性があるのかの観点で発表を聞くと挨拶されました。

来賓の牧野飯田市長も挨拶されました。



生徒の皆さんとのあいさつ



発表の資料(一部)

パワーポイントを使っての発表

音響、照明も駆使しながらの発表となっていました。



行政関係者、公民館館長、公民館主事の皆さんも聴講されていました。

飯田市長、代田教育長は終了まで、生徒の皆さんの発表を聴かれました。

市長の思いは伝わったものと考えます。

以下発表の概要

商業科1・2年生も地域人教育の一環として、フィールドワークや地域で活躍する経営者やプロフェッショナルの講演、インターンシップなど実施した内容の発表

★1竜丘地区では高齢者が多く一日中誰とも話をしないこともある方も多いことから、気軽に集まれる場の提供を考え、二か月間で5回のお茶会を計画し実施した。

★2橋北地区では、世代を超えてコミュニケーションが取れる「高齢者と若者の交流」を課題として取り上げ、流行のタピオカドリンクの無料配布を通して若者を引き付ける戦略を考え実行した。

高校生スーパーを開業していましたので、その資産を引き継ぎ同場所でそれらの活動と囲碁ボールやトランプなども行い、交流の輪を広めることができた。

★3スパイスカレー開発のグループです。

地域人教育ではフィールドワーク等で地域課題を発見しますが、このグループはスパシーカリーを開発して広めたい一心で、地域消費者の潜在需要を顕在化させる積極的マーケティングの実践研究を行いました。

生徒はカリーの知識を学び筆記試験も受け事業所と連携してスパシーカリーを開発、カレー教室の開催や公開講座の受講生や地域行事等様々な機会を使ってプロモーションでした。

★4鼎地区では、まちづくりに向けて子供に目を向け、マスコットキャラクター「かなにゃん」を使って公式キャラ化を図ると同時に、工業科と連携しながらビスケットの型作りや、料理教室も実施した。

★5座光寺地区はフィールドワークや住民アンケートの結果、この地区には魅力がないと考えている人が多い。

そこで、「食・交流・景色」をキーワードに地元の方にその良い所を知つてもらう課題に取り組んだ。

伝統の座光寺インド饅頭が登場！

★6東野地区では、この地区の幻のブランドではある「柏原産野菜」の広報活動を課題としました。

柏原野菜は、地元でも知らない人が多く、生徒はポスターを制作しジャガイモもちやさつまいももちを試作し、運動会やフリーマーケット、イルミネーション点火式で地域住民に提供した。

★7「IT」～それを見たらもっと好きになる～

イナゴクッキーとイナゴパフェの発表がありました。

★8松尾地区では、若い買い物客が大型店の影響から流出している現状に問題意識を持ち、「多世代が交流できる場、多世代が松尾の魅力を共感できる場を作りたい」と12月中旬の週末2日間にかけて「SUN CAFE」開店した。

プロモーションの効果もあり、2日間で90名が来店し、大変盛況だったとの報告がありました。

★9高校生居盛屋「笑歩」を開店しました。

飯田下伊那の良さについてブレーンストーミングで出し合うGWや、中心市街地での聞き込み、農家へのインタビューを行い、メニューを決め広告を作成し協力店を探して連携を取り付け2回の出店を果たしました。

★10橋南地区ではこの地区の魅力を外に向けて発信するために、地域プロモーションのホームページを作成した。

橋南のまちづくり委員会に協力を依頼し、市政懇談会に参加、また、ホームページ作成のノウハウを持つ飯田コアカレッジとも連携して各所への取材を敢行し、サーバの契約もして完成まで漕ぎつけました。

完成したものは橋南地区へ引き継ぎ継続性も担保されるとの報告でした。

閉会式で立命館大学の平岡教授と松本大学の白戸教授から講評がありました。

参観者からアンケートにお礼の言葉を添えさせて頂きました。

発表の最後には、発表者から、公民館長、公民館主事、地域の皆さんへお礼の言葉がありました。



令和 2年 1月 17日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和2年 1月 17日 ~ 令和2年1月 17日
出張先	広島県広島市「国土交通省中国地方整備局」
出張内容	河川協力団体と中国地方整備局(河川)との意見交換会
応対者	国土交通省中国整備局 岩崎福久河川部長 他
概要 所感	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 河川協力団体の稼働内容と今後の方向性について研修を受講</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 開会のあいさつ「中国地方整備局河川部 岩崎福久部長」 2. 自己紹介 3. 河川管理者からの情報提供 4. 河川協力団体の活動報告 11団体からの報告 5. 閉会 <p>【所感】 中国地域の河川協力団体11団体が出席しての意見交換会でした。国も積極的に地域の活動の生の声を聴いて、今後の河川管理の事業に取り組もうとする姿勢がうかがえました。</p> 

本日ご出席の団体は、長期間継続的に取組みをされており、参考となる事例を聴くことができました。

河川法99条による委託事業(確認 必要！)

※意見交換会の席で、関心の持てる話しを聴きました。

河川敷の有効活用の手法

敷居が高いかもしれません、規則を確認して津山市としても取り組めないか？確認していかなければなりません。



河川協力団体制度

河川法第99条に基づく委託事例

国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課
令和元年12月

国土交通省

河川整備は、今後の大きな課題になると捉えて、「彩りの森づくり」の団体として出席しました。

令和 2年 2月 5日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和2年 2月 5日 ~ 令和2年 2月 5日
出張先	総社市社会福祉協議会
出張内容	ひきこもり支援センターの活動状況の調査、研究
応対者	総社市社会福祉協議会 佐々木氏
概要所感	<p>【種別】 ■調査研究・視察 □要請・陳情 □研修会 □各種会議</p> <p>【目的】 総社市ひきこもり支援センターの活動内容を調査研究 「ワンタッチ」の設立の経緯と取組みについてお聴きました。</p> <p>【概要】 平成27年8月 ひきこもり支援等検討委員会の設置 平成30年7月1日 ひきこもりサポートの会を設立</p> <p>【所感】 ひきこもりの人数把握は、難し状況であるが、支援センター職員及び民生委員の皆さん情報入手し、活動を行っておられます。 津山市では、子ども・若者支援地域協議会が設立(H30. 12. 1)、これからの事業実施の参考にします。</p>



平成29年 ひきこもり支援センター設立の経緯

平成27年8月 ひきこもり支援等検討委員会の設置

民生委員・福祉委員の支援を受けて市内17全地区で地区懇談会を開催し、207人のひきこもり状況を把握する。

80歳の親が50歳の子どもの世話をする(8050問題)

令和元年10月31日現在の推計値は、520人(10代から60代)

当初調査で207人であったが、相談者の人数を付加すると上記数値になる。

207人の内相談者(重複者)22人です。

平成28年からひきこもりサポート養成講座を開始

令和元年度で77名のサポートーが登録

全5回の講座受講が必修となっている。

平成30年7月1日 ひきこもりサポートの会を設立

平成30年8月16日 ひきこもり家族会「ほっとタッチ」設立

めざすは、社会参加！

視察資料

総社市ひきこもり支援センター
「ワンタッチ」の取り組み

ワンタッチ



社会福祉法人
総社市社会福祉協議会
ひきこもり支援センター





きびの会(ひきこもりの家族会)の皆さんのお誘いを受けて参加する。

参加者から多くの質問が出ました。

吉備の会他 11人 美作大学 菅原ゼミの先生及び学生さん6名 が出席

津山市では、子ども・若者支援地域協議会が設立(H30. 12. 1)

きびの会の皆さんに「子ども・若者支援地域協議会」の存在をお伝えできていないのは！と感じる場面があった。

注目！記事

総社市は5日、防災用に備蓄しているマスク40万枚を、市民や福祉施設などに無料で配った。

市民向けは20万枚

(16万枚は小学校区ごとにある地域づくり協議会を通じて各地区で配布。4万枚は市役所の玄関で手渡す)

※1世帯に10枚のマスクが配布されることになる。

20万枚は介護、障害者施設、学校向けなどへ。

令和 2年 2月 20日

出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和2年 2月 20日
出張先	岡山市(山陽新聞社 さん太ホール)
出張内容	山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム(第4回)
応対者	山陽新聞社
	<p>【種別】 <input type="checkbox"/>調査研究・視察 <input type="checkbox"/>要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/>研修会 <input type="checkbox"/>各種会議</p> <p>【目的】 山陽新聞創刊140周年記念連続シンポジウム(第4回) 「令和時代の地域をつくる」 テーマ:「交通は幸せのもと」 人口減少時代を迎える中、人々が社会との接点を持つために交通は重要である。</p> <p>概要</p> <p>【概要】 基調講演 関西大教授の宇都宮淨人氏 「幸せをもたらすモビリティー」 モビリティー(移動手段)政策に詳しい欧州の先進事例を引きながら、鉄道や路面電車、バスの一体運用など公共交通のサービス改善が「人々のライフスタイルを変え、交流も活発化する。 幸せな社会を築くためにはモビリティーが重要だ」 「Maas」とは パネルディスカッション 「暮らしを豊かにする交通のために」 中心市街地と周辺を結ぶ交通ネットワークの整備や、高齢化が進む地域での住民による送迎事業など、それぞれの取り組みを聴きました。</p>
概要所感	



モビリティー(移動手段)政策に詳しい関西大教授の宇都宮淨人氏が「幸せをもたらすモビリティー」と題して基調講演。

欧州の先進事例を引きながら、鉄道や路面電車、バスの一体運用など公共交通のサービス改善が「人々のライフスタイルを変え、交流も活発化する。

幸せな社会を築くためにはモビリティーが重要だ」と呼び掛けた。

パネルディスカッション

パネリスト 岡山市長の大森雅夫氏

浅口市みどりヶ丘イキイキグループ副代表の宮本紀子氏

岡山県西粟倉村地域おこし協力隊の猪田有弥氏

モデレーター 山陽新聞社 岡山一郎氏

SDGsネットワークおかやま 会長 石原達也氏



「暮らしを豊かにする交通のために」と題して行われたパネルディスカッションには、宇都宮氏と岡山市長の大森雅夫氏、浅口市みどりケ丘イキイキグループ副代表の宮本紀子氏、岡山県西粟倉村地域おこし協力隊の猪田有弥氏が参加した。

中心市街地と周辺を結ぶ交通ネットワークの整備や、高齢化が進む地域での住民による送迎事業など、それぞれの取り組みを話した。

開催の趣旨	
<p>この会議は、地域活性化のための「暮らしを豊かにする交通」について、実現するための議論を行なうことを目的としています。主な議題は、中心市街地と周辺を結ぶ交通ネットワークの整備や、高齢化が進む地域での住民による送迎事業など、それぞれの取り組みを話し合うことです。</p>	
プログラム	
09:00	開会式
09:05	第1回：質問演説 「暮らしを豊かにする交通」セミナー
＊司会	宇都宮 雄人氏（宇都宮市長）
09:15	大森 雅夫氏（岡山市長）
10:00	宮本 紀子氏（浅口市みどりケ丘イキイキグループ副代表）
10:15	猪田 有弥氏（岡山県西粟倉村地域おこし協力隊）
11:00	閉会式

第1回 質問演説

宇都宮 雄人氏（宇都宮市長）

大森 雅夫氏（岡山市長）

宮本 紀子氏（浅口市みどりケ丘イキイキグループ副代表）

猪田 有弥氏（岡山県西粟倉村地域おこし協力隊）

第2回 パネルディスカッション

「暮らしを豊かにする交通」のための取り組み

大森 雅夫氏（岡山市長）

宮本 紀子氏（浅口市みどりケ丘イキイキグループ副代表）

猪田 有弥氏（岡山県西粟倉村地域おこし協力隊）

宇都宮 雄人氏（宇都宮市長）

岡山 市長（岡山市長）

令和 2年 2月 23日

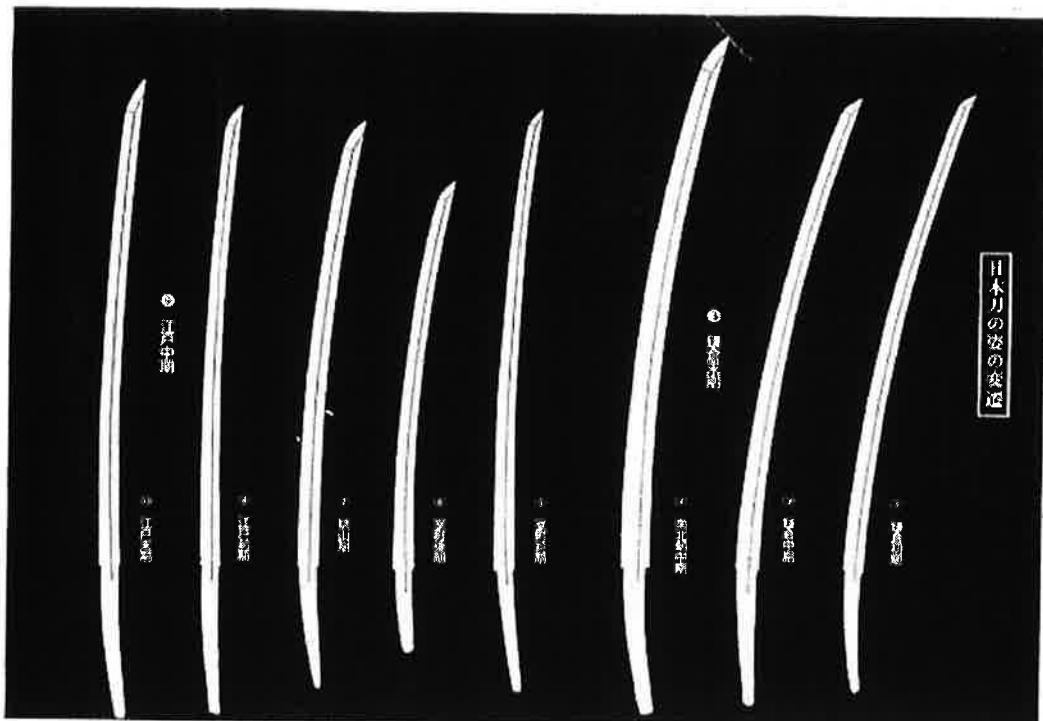
出張報告書

津山市議会議員 安東伸昭

出張期間	令和2年 2月 23日
出張先	宮本武蔵記念館
出張内容	「宮本武蔵と日本刀」の学習会
応対者	武蔵研究会 千原会長
	<p>【種別】 <input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議</p> <p>【目的】 津山市の刀剣展を控え、日本刀についての基礎知識を習得すること</p> <p>【概要】 武蔵の里交流館(美作市宮本)で開催された、「宮本武蔵と日本刀」の学習会に参加する</p> <p>主催:武蔵研究会 講師:本位田悟司副館長 公益財団法人日本美術刀剣保存協会 姫路しらさぎ刀剣会</p>
概要感	

1部:日本刀の姿と時代

刀の姿は時代がつくっている。



徳川八代将軍 德川吉宗

・全国の刀工調査

最優秀4工を決める。

信国重包・宮原正清・玉置安代、南紀重国

・「享保名物帳」の編集にあたらせた

248振を指定(本阿弥光忠)

2部:宮本武蔵の所持刀

・了戒(武蔵了戒)2尺八寸 山城伝

・磨上無名(武蔵正宗) 2尺4寸4分

・磨上無名(金重) 2尺3寸1分

・和泉守兼重 2尺5寸

・(参考)安綱 2尺6寸4分

・(参考)宇多国宗 2尺3寸4分

刀剣の指定

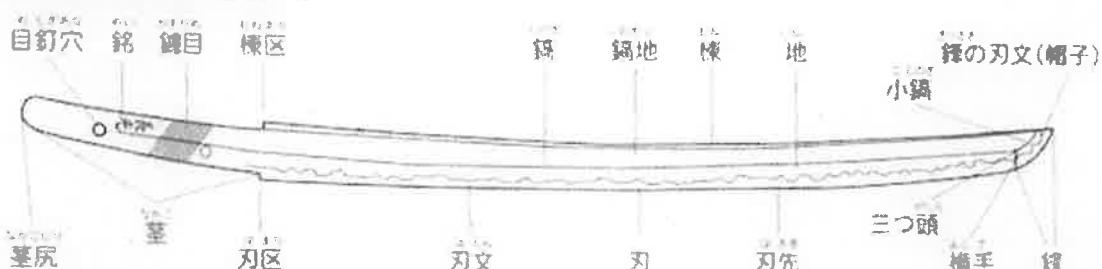
国宝(文化庁)、重文(文化庁)、特重(日刀保)、重要(日刀保)、特別(日刀保)、保存(日刀保)

公益財団法人日本美術刀剣保存会 姫路しらさぎ刀剣会

日本刀と基礎を知るために参加するが、奥が深い！

まずは、刀身の部分名称だけでも覚えておきたい

刀身の部分の名称



日本刀の変遷や 武藏愛刀テーマ

あす美作で研究会

美作市大原地域の住民でつくる「宮本武蔵顕彰会」は23日午後1時半、「宮本武蔵と日本刀」をテーマに第2回武藏研究会を武藏の里交流館（宮本）で開く。

司副会長 赤田が講師を務め、日本刀の種類や時代的な形と用途の変遷、伯耆（鳥取県）の刀鍛冶安綱作の日本刀など武蔵が使ったと言われる刀の特徴について話す。

入場無料。問い合わせは顕彰会の千原一夫

会長（0868-78-2683）。

大原地域は武蔵生誕地とされる。姫路しらさぎ刀剣会の本位田悟